令和6年6月5日開催

河南町議会委員会会議録

予算・決算常任委員会

河 南 町 議 会

予算・決算常任委員会会議録

開催年月日 令和6年6月5日(水) 午前10時00分

開催の場所 全員協議会・委員会室

出席委員 (9名)

委員長	高田伸也	副委員長	福田太郎
委員	松本四郎	委員	河合英紀
〃	大門晶子	〃	力武清
〃	佐々木希絵	〃	廣谷武
〃	浅岡正広		

欠席委員 (0名)

職権による出席者

議長 中川博

説明のための出席者

町長	森田昌吾
副町長	江島芳孝
教育長	中川修
総合政策部長	渡辺慶啓
総務部長	多村美紀
住民部長	大門晃
健康福祉部長兼総合保健福祉センター長	田村夕香
まち創造部長	安井啓悦
まち創造部理事	玉田武久
総合政策部秘書企画課長	森口竜也
総合政策部危機管理室長	木矢哲也
総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長	田中啓之
総務部人事財政課長	後藤利彦
総務部副理事兼施設営繕課長	牧野勉
総務部副理事兼まち創造部副理事	中崎誉之
住民部保険年金課長	桶本和正

健康福祉部副理事兼高齢障がい福祉課長	和田 信一
健康福祉部副理事兼健康づくり推進課長	辻 元 哲 夫
まち創造部地域整備課長	藤 木 幹 史
まち創造部副理事兼農林商工観光課長併農業委員会事務局長	中 海 幹 男
まち創造部副理事兼都市環境課長	池 添 謙 司
(教育委員会事務局)	
教・育 部 長	谷 道 広
教・育部理事兼指導主事	内 山 裕 生
教・育部副理事兼指導主事	柏 木 俊 介
教・育部教育課長	藤 井 康 裕
教・育部生涯まなび課長兼中央公民館長兼図書館長	森 弘 樹
教・育部学校給食センター所長	浅 井 明 郎

※各所属課の係長級以上も説明員として出席する

議会事務局職員出席者

事 務 局 長	梅 川 茂 宏
課 長 補 佐	門 林 純 司

付 託 議 案

議案第8号	令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）
議案第9号	令和6年度河南町国民健康保険特別会計予算（第1号）
議案第10号	令和6年度河南町下水道事業会計予算（第1号）

~~~~~  
審 査 の 経 過  
~~~~~

午前10時00分開会

○高田委員長

皆さん、おはようございます。

これより予算・決算常任委員会を開催したいと思います。

ただいまの出席委員は9名です。

河南町議会委員会条例第14条の規定により、定足数に達しておりますので、これより予算・決算常任委員会を開会いたします。

この委員会の傍聴ですけれども、委員会条例第17条の規定によりまして、3階の301・302の会議室で委員会の模様をテレビモニターで傍聴していただきます。

なお、委員会の休憩中は音声を出不さないようにいたします。

~~~~~

○高田委員長

昨日の定例会議におきまして当委員会に付託を受けました議案は、議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）ほか2件の審査についてであります。

委員会に対する町長からの説明員の通知につきましては、議長宛てに回答がございましたので、タブレットのほうに送信しております。

なお、説明員の補佐といたしまして、必要に応じまして課長補佐、係長の説明も認めておりますので、ご了承をお願いします。

ここで、審査方法についてお諮りします。

まず初めに、町長の所信表明に対する質疑をお受けしたいというふうに思います。

次に、議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）から議案ごとに歳入歳出一括して説明を受け、その後、質疑をお受けします。

3件の各会計補正予算の討論、採決につきましては、全ての審査が終わった後、1件ずつ討論、採決を行いたいと思います。

以上の方法で審査を行うことについて異議はございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○高田委員長

異議なしということですので、以上のように行います。

ここで、委員長より一言申し上げます。

発言される際につきましては、挙手をいただいて指名を受けてから発言願います。次に、委員の質疑につきましては、簡潔明瞭に説明をいただき、理事者は質疑の内容を十分に把握され、的確な答弁をお願いしたいというふうに思います。また、委員及び理事者は、必ず補正予算書のページを述べてください。

スムーズに委員会が進行しますよう、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

~~~~~

○高田委員長

ここで、委員会の開会に当たりまして、町長より挨拶の申出がありましたので、お受けしたいと思います。

森田町長。

○森田町長

改めまして、おはようございます。

本日、予算・決算常任委員会を開催いただきまして、ありがとうございます。

昨日は、本会議におきまして条例、それから人事案件等々についてご審議の上、ご可決、ご同意賜りましてありがとうございます。今回は選挙が終わりまして初めての議会ということでございますので、今後4年間の思いというものを所信表明にしてお示しさせていただいたわけでありまして、6月の定例会議におきましては、当初予算が骨格でございましたので、肉づけということでさせていただいて本日ご審議いただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

予算案件は、一般会計を含めまして3件でございますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○高田委員長

町長の挨拶が終わりました。

~~~~~

○高田委員長

それでは、所信表明に対する質疑をお受けします。——河合委員。

○河合委員

町長の所信表明の11ページから12ページにわたってのところの公共施設再編整備基本計画のところから質問させていただきます。

6月の議会だよりのときでも広報委員会として町長にインタビューをさせてもらって町長のお考えを聞かせてもらった中で、一番夢のあるというか、よくなりそうやなと思ったのがやはり公共施設の再編整備で、旧庁舎跡のところの整備をこの4年間で具体的に何かしら進めていきたいというような前向きなインタビューで答えてもらったんですけども、改めて町長、そこら辺が全然具体的に今回の所信表明では出ていなくて、今の町長のお考えを聞かせてください。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

公共施設、今利用に供していない施設が何個かありまして、この部分についてはやはり耐震性もありますし、役割を終えているということで取壊しというんですか、そういうような方向で進めたいんですが、全体として今後、今回のところではお示しできなかったんですけども、この任期中に何らかの形で見える形に進めていきたいと思っています。

以上です。

○高田委員長

河合委員。

○河合委員

なかなかいついつにこれをするとかというところまでは言えないとは思いますが、すごく町長のインタビューの中ですごい河南町がよくなるなと思える具体的なインタビューだったので、是非とも実現できるように要望だけしておきます。

以上です。

○高田委員長

分かりました。

ほかに。

松本委員。

○松本委員

私は、今回、町長の所信表明について、まず5項目についてお尋ねしたいなと思っています

す。

まず1つ目は、最初の住みやすい町へのというところの町長の所信表明に関してですが、まず1つ目、この住みやすい町について、まず防災の問題、これからもしっかりやりますよと一応対応してくれてはるんですけども、まずここで、防災の問題でまず1つ目、地域のいろいろと防災に関するいろいろな援助とか、協力とか、対策をしっかりとやっただけではない消防団についてなんですけれども、今現在、消防団はだんだんと消防団に加入する人が減ってきているというふうに聞いておまして、今後、消防団をどのようにしてしっかりと対応していくかということなんですけれども、町長としてもいろいろと支援をしていくと、このようにおっしゃっているんですけども、まず1つ目、消防団の今後の加入者を増やす対応とか、そういうことについてどのような対応を考えておられるのかということをもまず1つお聞きしたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

消防団はなかなか新しい入団者が難しいと。これはやはり消防団員の人も消防の研修というんですか、そういうようなものをちゃんと受けるというのがきっちり今されているというところがあってなかなか入団者がいてないと。ただ女性消防団は昨日、おとついても入団者が1人あったんですけども、入団する方々に少しPRも含めて、広報も含めてやっていきたいと思っています。

あと、学生の消防団も募集しているんですけども、学生で時間的に働いている方よりも余裕のある方については、どんどん消防団になっていただきたいなと思っています。学生の場合は、消防団で地域にそういう活動をしているということで就職とか、そういうところでも少しインセンティブが出ているような、そういうところもありますので、ただ大阪芸術大学とかも学生は行っているんですけども、大阪芸術大学の学生は少し授業のほうがすごく忙しいみたいでなかなか新たな団員の獲得には至ってないですが、これから消防団とも協力しながら地域に根差した消防団員の確保に努めていきたいと、このように考えています。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

私もいろいろと消防団の人には聞いていますけれども、なかなか大変な仕事をやってくれ

てはるので、これからはやはり消防団員をいかにして加入してもらうような対応をするか、いろいろとまた私たちもできたら知恵は出したいと思っていますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

そのついでですけれども、もう一つ、この住みやすい町へのところですが、地域のボランティア組織として今それぞれ子供たちの安全を守るために青色防犯パトロールを一応動かしていただいて、これは前武田町長のときに発足したことなんですけれども、しっかりと対応してきていてきているんですけれども、この青色防犯パトロールもやはり参加していただいている方はかなりもう高齢者が多くなってきていまして、まず高齢者となると、これは地域によって違うんですけれども、例えば中村地区であれば毎日青色防犯パトロールの車が走って運転してやっけていただいているんですけれども、これが高齢者の方がしっかりとやっけていただいているんですけれども、やはりだんだんと高齢化がもっともっと進んでいくことによって、もしそういうボランティアをしている人に事故があってもいけませんし、この辺のところのこの青色防犯パトロールの高齢化の問題も含めて、こういうボランティア組織の活動というのをどのような形で若い人にまた引き継いでいくのかというところも問題だと思うんですけれども、この辺のところについて町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

防犯パトロールは十何年続けてやっけていまして、だんだんそのボランティアをやっけていただいている人が年を取っていくというのが課題の一つに上がっているかと思ひます。やはり地域の安全をみんなで守るといふ、そういうような考えの下でこれを始めていますので、形がどんどん変わっけてきているといふのもあると思ひますよ。子供たちの通学環境も変わりましたし、それからあと、お年寄りの方とか含めていろんな方の行動といふのもコロナによって大分変わっけてきたので、今の形に合った形でパトロールを続けて、やはり地域安全に努めていきたいと。やはりボランティアをする方の安全といふのは、一つ大きな課題でありますので、その辺も含めて、あとは次の人へのバトンがどういふふうに移行できるかといふことも含めてボランティアの皆さんと検討したいと思ひます。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

よろしくお聞きしたいと思います。私ばかりですけれども、もう少しあと2点だけお聞きしたいと思います。

10ページなんですけれども、町の主要産業、持続可能な農業への推進ということなんですけれども、これにつきましては、前、町長からも大分以前からもいろいろと対応してきていただいているんですけれども、今回、ここで触れられている中で、道の駅のかなんを介した販売に注力していきたいというようなこともおっしゃっています。その中では民間事業者との連携強化とか、にぎわいの創造に向けて検討するということなんですけれども、これについて2つなんですけれども、まず1つ目、道の駅の整備用地の方向性について、昨日も私もお聞きしましたけれども、開発公社が持っている道の駅の整備用地、これはやはりしっかりと有効活用していくというのが一つかと思います。

もう一つは、民間事業との連携ということで近鉄グループとの連携をしてきているんですけれども、この辺について具体的に近鉄グループとの連携によってどのような効果が表れるのかということと、その効果を見て今後どのようにして民間事業と連携していくのかということについてお聞きしたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

道の駅ですけれども、拡張部分について昨年度何とか舗装、それまで砂利というか、そういうような状況になっていたんですけれども、舗装をいたしまして、一部駐車場に使えるような形にはしたんですが、将来スペースについては一部残しているところもあります。ここについてはやはりどんな形で誘致できるか、いろんなところのヒアリングとかというのもやっているんですけれども、今の段階でマッチングできるような形のものがまだ見いだせない。今までもサウンディング調査とか、いろんなこともいっぱいやったんですけれども、やはり沿道の商業施設の状況とか、いろんなものから企業が判断されますので、そういうところを聞きながら町としてもできる範囲でどうやったらいけるのかなということも含めて検討していくということでございます。

あと、道の駅の売上げですけれども、3億円ちょっとあるんですけれども、その部分については、これからも維持していく、プラスしていくという形にはなるんですけれども、やはり道の駅だけでは、もし販売するものがあればもう少し販売力を高めるということとPRに努めるということを含めてやっていかないといけないなと思っています。

民間事業者との連携で、そういう道の駅の拡張部分への誘致も含めて検討しているんですが、販路というか、販売、PR活動を進めるということで、やはり今、近鉄百貨店でのコーナーを設けていただいて販売するとか、いろんなイベントに参加させていただいて河南町のものをPRするというような形で、今は少しずつ町のPRも含めてやってきているという状況で、もう少しまだどういうふうに展開するかというのは、まだまだこれから先のことで、これからも頑張っていきたいと思います。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

ありがとうございます。やはり河南町の主要産業の農業をしっかりと支援していくという形で引き続きご支援をお願いしたいと思います。

そして最後です。最後ですけれども、今度は公共施設の再編整備計画についてということで、先ほど河合議員からも、河南町の役場の跡地問題、これから新しく大体青写真もできたというふうに聞いていますので、これはこれで進めていってもらえますけれども、もう一つ懸案の何回も私も言っています、タウンミーティングでも出ているんですけれども、やはり旧白木小学校の跡地と、それから旧河内小学校の跡地をどのような形で進めていくのかと。特に旧白木小学校の跡地については、白木地区の住民の方も非常に何とかして活用してほしいよなという意見がたくさん出てきていますので、この辺についてずっと今まで懸案になっていますけれども、何か具体的な対応できるような方向を見つけていきたいなというふうに考えておりますけれども、最後になりましたが、町長のいろいろな方針をお聞かせください。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

懸案事項でございまして、やはり白木小学校については、地域の今までの中心的役割、心の中心でもあったと思うので、何らかの形での活用ということでいろんなところに今聞いたりとかしているんですけれども、やはり学校という用途、それから敷地の状況とか、いろんなことから、まだ具体的な形が見えてきていないというのが実情です。

ただ町の財産ですので、住民の皆さんの財産ですので、どのような形で使うというか、あと活用していくかというのは大きな課題ですので、いろんなところにアタックしながら進めていきたいと思っています。ただもう少し時間をいただけたらと思います。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

分かりました。

白木小学校の土地の問題もいろいろやっていただいておりますけれども、時間がかかるということで、引き続き是非いろいろな検討をお願いしたいと思います。

○高田委員長

ほかに。

力武委員。

○力武委員

総論的な話からさせていただきたいと思うんですけれども、森田町政としては、挨拶にあったように2期目のスタートとなるということで、改めて再選おめでとうと言いたいと思います。

そこで、10人の議員が全て応援するという近年にない、ほかの市町村にはない珍しいことやないかなというふうに思っておるんですけれども、無投票という具体的には有権者の審判を上げなかったというはあるんですけれども、それだけに住民の方の期待はすごく大きいというふうには思っているんですよね。その中で住民の方が何を森田町政2期目に対して期待している、そのことをどのように町長自身は捉えておられるのか、基本的なことをまず最初にお聞きしたいなというふうに思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

選挙は無投票という結果、結果は結果として受け入れる必要があると思っています。ただ無投票になったということで、いろんな住民の皆さんの声を聞く期間がその分少なかったというのが実感としてあります。そういう意味では、やはり4年間の実績を踏まえてこれを引き続いてやれよと、そういう住民の皆さんの期待の声、それからこういうところにまだまだ不十分な点があるからしなあかんけれどもというようなご意見もあると思うので、いろんな方のご意見を伺いながら町政を進めていきたいとは思っています。そのためにも、そういう住民の皆さんの意見を聞く機会は何らかの形で設けていきたいと思っています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

是非いい意味の聞き方というか、住民と寄り添う町政を目指していただきたいなというふうに思います。

それで、次に具体的問題ですけれども、2ページの真ん中辺りと5ページの下の7行辺りのバス問題が述べられておりますけれども、その件に関して聞きたいと思うんですけれども、金剛バス廃止に伴う地域公共交通はこの地域だけの問題に限っていない。大阪においても阪急バス沿線の2路線が廃止になる、地方でもそういう状況、バス問題、運転士不足、成り手不足、という社会問題となっているんですけれども、幸いこの地域は4市町村が協力して、昨年来、職員の踏ん張りもあって維持できているんですけれども、維持するに当たって相当の経費がかかる、これはもう誰もが承知していることなんですけれども、その点で問題点、通勤・通学の足の確保を中心に今やられているんですけれども、この点でのバス問題を改めてどのように捉えておられるのかお聞きしたいというふうに思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

今ご指摘ありましたように、乗務員不足というか、これは国全体のことで、乗務員不足の問題が一番大きい課題で、正直言いますと4市町村で運行しているんですけれども、その運行に当たっても、近鉄バス、南海バスに委託した部分については、何とかそのバス事業者でということなんですけれども、それを補完するところで町の有償運送バスを走らせていますけれども、この分については乗務員の確保というのがもう本当に至難というか、苦難というか、やっとそういうような状況になったというのがありますので、何とかこの乗務員の確保というのが一番大きな課題かなとは思っています。

それと、あともう一つは財源というか、負担の問題なんですけれども、これだけ交通を維持するためにはそれだけの費用がかかっているという、これは住民の皆さん全員で負担するわけなんです。ですので、住民の皆さんがやはり我々が支えているというか、我々が運行しているという、そういうような意識づけのために今広報にもバスに乗りましょうというような帯みたいなのを毎月載せたりしておりますので、やはりそういう形で財源の確保も含めて何とか続けられる形をこれからまだ少し見いださないといけないなと思っています。

そのためにはどんな形がいいのかというのは、全体的な4市町村の協議会の中でも議論が

あると思いますので、町としてどういうふうやっていくかということは検討していきたいと思っています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

住民がバスに乗るということも大事なことだというふう思うんですけども、財源の確保、乗ればそれだけ運行に係る経費は少なくなるというのは当然のことなんですけれども、住民がこれだけバス問題に関心が高くて、廃止せんといしてほしいという要望の中で、この地域で公共交通を守るという立場で言えば、住民にもある程度のサポーター的な制度を導入したらどうかなというふう思うし、また財源の問題についてはクラウド制というか、クラウド的な制度を設けて訴える、こういうやり方もあるんじゃないかなというふう思うんですけども、その点ではいかがでしょうか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

公共交通の維持というか、住民の皆さんの移動手段を確保するというのが一つの大きな命題ですので、そのためにはどんな形をやっていくか。先ほどの応援団というか、サポーターというか、そういうふうなものを導入するというのも一つの手であるし、財源の確保については当然そういうクラウドファンディングとかいろんな形がありますので、その点については、今、各部署で検討しながらどういう形がいいのかというのは検討したいと思います。

それからあと、やはり国とかの支援、こういうようなものも含めてやはり要請もしていきたいと思っています。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

もう一つは運転手不足、成り手不足の問題で、これはニュースで報道されていましたがけれども、全国のバス会社が、関東地区のことを言うてはったんですけども、バス会社が協力して集団でアプローチをかける、運転手を集めるという、そういう取組が報道されていたけれども、この地域でもそういった南海や近鉄、ほかのバス会社もあると思うんですけれ

ども、そういう行政もそこに協力するというような協働でバス運転手の確保に関してのアクションを起こすような取組も必要ではないかなというふうに思うんですけども、その点でせっかく協議会が4者であるわけですから、その点でそういうテーマに基づいて取り組んでいくということをやったらどうかというふうに思うんですが、その点はいかがでしょう。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

いろいろご提案、運転士不足の解消に向けての提案なんですけれども、民間のバス会社等々においては、やはり運転士の養成から始めるとか、そういうようなことから始めるような、そういうようなバス会社もあるようです。広告でも経験不問とか、2種免許を持ってなくても養成しますよというような、そういうような広告もあるようであります。

ただ河南町が運行しているバスの運転手確保と、やはり今、事業者がやっている、近鉄、南海がやっているバスの分もありますので、なかなか少し事情が違うのかなと。町のほうでそこまでの育成というのはなかなか難しいし、運転手の総量というんですか、数も限られていますので、全体的にどういう形で、町もそこに入れたらいいですけども、なかなか入るのが条件的にも待遇的にも難しい点があるのかも分かりませんので、その点も含めてこれから勉強していくという形になろうと思います。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

6ページ、公共交通の最後のところで新たなモビリティサービスの導入を示唆されているページがあるんですけども、これは具体的にどういうイメージを捉えてこういう表現になっているのか、町長の考えを示していただきたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

今、国のほうでは、新たなモビリティということでライドシェアというのが国交省でも検討されていますし、あと大阪府も自動運転の検討をこの地域で入るということでもいろいろ調査活動も今行われていますので、その点も踏まえてどんな形のものが河南町でできるのかなということを踏まえて考えていくということで、それとあと、やはり運転手とか乗務員の

確保については、国のほうでもいろんな形、短期での養成とか、そういうようなことも含めて制度改正をいろいろ議論されていますので、その議論を見た上で、町としては町に合ったというんですか、実情に合ったものにしていくというのが一つの考え方かなと思っています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

交通問題はそこに置いといて、次に、子育て・教育は河南町でという7ページの関連のところですけども、その合い言葉の下で、この間、給食費の無償化、アンダー22の取組やしゅっぽぽあるいは親子園という、子供の子育てに関してはすごく河南町は優れた施策に取り組んできているんですけども、先進的にやって行って自慢していい施策だというふうに思うんですよね。

そこで一つ、昨日、条例改定が提案されていましたが、職員、保育士の配置基準が見直しされたという条例改定が提案されていましたが、昨日は部長答弁だったんですけども、中村こども園の保育士の配置基準、これが河南町では遅れているというふうに思うんですよ。安心・安全、親御さんが預けてここでよかったなという総合的に中村こども園が質量ともそういう安心できるこども園に発展させていくということでは、職員もきちんと国基準を守ってやるんだという方向性を見いだすべきではないかなというふうに思います。昨日、町長の答弁がなかったなので、改めてこの場で聞きたいなというふうに思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

中村こども園は公立で、町立施設でありますので、当然ながら国の基準に沿った形で進めたいとは思っていますが、今年度については採用の問題もありますし、保育士の確保の問題もありますので、昨日の部長の答弁のとおりなんですけれども、やはり教室とか、そういう施設のキャパもありますので、その中でどういう形でやっていくのかということ、年長になってきますとやはりクラスというような考え方も出てきますので、単純に保育基準での保育士の配置というものをどうやっていくかというのは考えていかなければならないと思っています。

ただ中村こども園もそうですけれども、町としてはフリーというんですか、そういうような保育士も配置しながら、やはり子供たちの安全、子育てに努めていくという形で今努めて

いますので、保育士の確保についてはもう少し時間をいただきたいと思っています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

それと、同じページのところで学校給食の問題を質問したいと思うんですけども、これも先進的に学校無償化、中学校給食も先陣を切ってやってきているわけですけども、もう一つ僕も突っ込んで話を深く掘り下げて、献立の問題で米の消費が全国的にも減っていると。米の国でありながら米の消費が減っているという、そういう問題意識を持ってまして、学校給食はそういう点では一番消費が拡大できる場所だし、将来にわたって米というのがいかに人間の体にとって、成長にとって大事かというのは誰もが知っている話なんですけれども、今、米飯メニューが週2、週3やられているんですけども、これをもっと広げていくことが取組としてできないだろうかということで、米粉パンとか、米粉のうどんとか、ベトナム料理でフォーとかいう米を使った料理というのは結構あると思うんですね。そういったところに新たな献立編成を入れられればもっと米の消費が増えるんじゃないかなというふうに思っています。その点で河南町だけの消費でそれがすぐ拡大するとは思いませんけれども、近隣の市町村と協力してそういう方向性を見いだすことも大事ではないかなと思うんですけども、その点での考えを示していただきたいなと思いますけれども。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

今、学校給食で週3だと思うんですけども、お米の給食ということになっていると思います。給食の献立ですので、栄養のバランスとかの問題もありますので、献立委員会が立案されるその献立でということで今やっております。ただ米の消費拡大とか、そういう点から米を原料としたものを使うとか、そういうようなことは考えていったらいいかなと思います。

あとは米飯給食の回数をどうするかというのは、これからもどういう形で議論していく必要があると思いますけれども、現段階ではやはり献立委員会の献立に沿った形で進めていくという形で進めたいと思っています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

最後の質問になります。

13ページですけれども、2町1村の未来協議会の課題の対応の検討、将来にわたって議論を深めていくなどと述べられておりますけれども、議論することは非常にいいことだというふうに思うんですね。しかし、議論する方向性はどういう方向性を見いだすのかということが大事ではないかなというふうに思っているんですけれども、その点で町長はこの未来協議会のある姿というのはどのように描いておられるのか聞きたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

未来協議会については、ここに書いているとおりになんですけれども、やはりこれからの市町村の在り方、特に町村の在り方をどういう在り方がベスト、ベターなのかというのは議論していく必要があるんですね。その中でやはり住民サービスを維持していくためにどうするのか、もっと住民サービスを向上するためにはどうしていくべきなのか、そこは人口の問題もありますし、人口減少に、少し減少するということはこれはやむを得ない事実だと思うんですけれども、どうやって歯止めをかけていくか、それは抜本的な国の政策もあると思うんですけれども、町としてどうやっていくかということ踏まえて、町として自立するというか、そういうような方向の中で未来協議会の中で広域的にやるものとか、協働してやるものとか、それから今後どういう形がいいのかというときにやはり合併という問題も出てくるかなと思っています。そういうようなものも議論しながら方向を見いだすと。現段階でこう進めるという方向性はこれからということで考えています。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

各自治体が今町長が言われたように連携して広域行政をやっていくこと、これは何の異論もないんですね。ただ市町村合併と広域行政で協力してやるというのは本質的には違うというふうに僕は思っているんですよ。だからその議論が合併に一筋に行くんじゃなくて、広域行政を今言われたようにどう効率的に、自立した市町村が広域的に効率的にやるということで道筋を見いだすんだったらいい議論ができるんじゃないかなと。合併に向かっていく議論はちょっと避けるべきだというふうに思うんですけれども、その点は改めて僕はここは町長の姿勢が問われているんじゃないかなというふうに思うんですけれども、その点ではいか

がですか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

合併合併という話があるんですけども、合併そのものがどうのこうの言うわけじゃなくて、市町村がこれだけ線を引いているというのは行政の中で境界を決めているだけであって、特に後から決められたものだというふうには思います。ですので、その境界がどうのこうのと言うわけじゃなくて、どういう形の地方行政というんですか、市町村の形がいいのか、住民のためになるような形がいいのかということ踏まえて検討した上で、広域的にやるもの、それから協働してやるもの、その中で全部が協働してやるとなるとやはり一つになるというような、そういう選択肢の部分だと思うので、合併を前提にということではないんですけども、やはりそういうことも考えざるを得ない状況になるのではないかというふうには思っています。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

合併を前提にしない議論は積極的にやってほしいという要望だけして終わります。

○高田委員長

分かりました。

ほかに。

浅岡委員。

○浅岡委員

4ページの災害の部分なんですけれども、今進めてもらっていますコミュニティータイムライン、地区ごとにつくっていただいているんですけども、限定した地区を年次的に行われているみたいなんです。内容が近いものでしたら各地区も時間をかけずに取り組んでいただいて、共通した訓練とかもできると思いますので、そういう進め方に変えてもらうことはできないのかお聞かせください。町長の考えでいいです。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

コミュニティータイムライン、やはり住民の意識を一つにするということで、こういうときにどうするかというのを前もって取り決めておくということが大事ということをつくっていています。ですので、コミュニティータイムラインをつくるのは、コミュニティータイムラインそのものはそれだけ内容の詰まった何ページもあるものではないんですが、やはり住民が意識としてみんなで作ってみんなでこうしていきましょうという、そういう機運醸成が必要なんだと思っていて、そういう形にするためには、単につくっただけじゃなくいろいろな話し合いとか、そういうような中でやっていく必要があるので、やはり町としても体制的に一遍にやるというわけにはなかなかいかないという部分があって、ここはマンパワーが必要なので、今の状況でできる範囲で地域と連携しながらできるところからやっているという状況でございます。ただもっと進めていきたいというような気持ちで持っております。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

今、町長がおっしゃっているように、つくるだけでは活用できないので、早め早めに体制づくりをつくっていただいた上で使いこなせるかの訓練というのがついてくると思いますので、今おっしゃってもらっていたできるだけ早くという考えを持っていただいているようなので、これまで年に2か所か3か所のところを33か所ですか、できるだけ早くに行き届くようにして、全地区挙げての訓練が行えるように持っていただければと思いますので、よろしく願いしておきます。

以上です。

○高田委員長

分かりました。

ほかに。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

いろいろ思いが書いてありますけれども、全体的に少ないなという感じは物すごいいたします。もうちょっと細かく書いていただいたほうがよかったかなというようなことを思いますけれども、まず10ページ、主要産業は農業である。もうこれはずっとこの言葉が出てくる、

実際、本当にそうかなというのは本当に疑問なんですけれども、河南町は。主要産業は農業であるというようなこと、よく河南町を紹介するとき、25平方キロメートルで市内まで三、四十分で行けるというようなことであちこち行ってもそういう言い方で紹介する。主要産業は農業ですというような言い方をしますけれども、高齢化が進んで遊休農地や耕作放棄地が毎年毎年増えていますよね。ずっと対策しているのに毎年毎年増えていっている。それを本当にここに書いていますけれども、こういうんじゃなしにちゃんとやるかという、ほ場整備とか農地改良、用水路の整備をして機械化を進んで持続可能にしていくというようなことをうたっていますけれども、それはそれで便利なところはほっといてもこないなっていますから、そやけど、遊休農地とか耕作放棄しているところは軽自動車も入らない、道もままならないというようなところが放置されていますので、これをどうやるかというのを具体的に対策しなければこの問題は永遠に残っていく。それで高齢化が進んで余計そういうふうになる。大きな棚田があったら、それを観光の資源にしてやっていく手もありますけれども、そうじゃなしに本当にほ場整備もできない、そういったところが多々ございますよね。

そういった中で、ずっとこういうふうに来てきた中で、それでもこれはどんどん増えていっている、面積が。草刈りもいろいろな課題がありますけれども、そういったところのへんぴな耕作放棄地をどうやるのかというのをお考えを示してください。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

確かに耕作がやりにくいというんですか、機械化がしにくい、そういうような土地も農地として町内にはあるという認識はあります。その中で、その一つとしてほ場整備とか、そういうようなものの導入というのものもあるんですけれども、これは全域というわけではないので、一部地域で今、加納・寺田地区で進めておりますので、そういうようなものをこれからも地域でまとまれば進めていきたいというのが一つと、あと農地については、今貸し借りのこういうあっせんというんですか、橋渡しもしておりますので、そういうようなところに登録というんですか、そういうようなのをしていただくような形も含めてやっていくというのと、やはり企業さんでの進出も含めて新たな農業者がどういう形で河南町で入りやすい形を進めていくかというのも一つの手かなと思っています。

今年度に、この中にも書いていますけれども、農業版の地域計画というのをつくる、これは国の方針で今年度中につくりなさいと、こういう指示が来ているものなんですけれども、

ここは今後どういうふうに農地を進めていくかというのを全ての農地所有者に意向調査をした上で、今後どう進めていくかという計画が立案されますので、その計画を基に今後進めていくという形にしたいと思っています。その中でやはりいろんな色分けが出ますので、その色分け中でこの地域はどういう形がいいのか、どうすべきかということも含めて方向性を出していきたいと、このように思っています。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

地域計画を立てるということで、本当にちゃんとした対策を打っていただきたいと思えます。

次に、13ページ、未来協議会でいろいろ議論する、方向性はいろいろ双方でできることは2町1村でやっていく。合併も視野に入れるというふうになっていますけれども、議論した内容を当然大阪府に持っていく。合併というような答えはなかなか2町1村では出せないというようなことになってくるかと思えますけれども、その決定権は知事にあるというようなことが未来協議会で2回目か3回目で変わりましたね。知事の決定権が合併というようなことに決定するとなるかも分かりませんものね。この決定権はやっぱり知事にあるんですか、これは。どうですか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

今おっしゃっていること、私も初めて聞く話で、市町村合併は市町村同士の取決めによって決めた上でということというふうに理解しているんですが、ただ大阪府の条例の中に合併を進めようという、そういうような市町村を支援していくということで、その支援に当たっては本部というんですか、それを立ち上げるその決定権者は知事でという、そういうふうな構図だと私は理解しているんですが、以上です。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

聞いたのが、この未来協議会が最初、課長か部長かというような取りまとめでなっていた。2回目か3回目にその責任者は知事に移ったというようなことを聞きましたけれども、

それは聞いたとおりでよろしいですか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

未来協議会の中で、最初にいろんな担当事務レベルの協議が始まって、ここから首長が入って協議会の組織をつくっていくという形、これは大阪府も入ってですけども、つくっていくという形をつくり上げて協議会の発足という形になったと理解します。その中で大阪府の関わり方については、今、市町村局が入っているんですけども、知事がという話はその協議会の中で出てきていないというふうに思います。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

そしたらそのようなことなんですね。聞いた限りでは、この未来協議会の全権限は知事に移ったというようなことを聞きましたので、議論を深めて合併なら合併、合併しないなら合併しないというようなこの協議会の中の細かいいろいろなこと、決まった結果を教えてもらうんじゃないしに、こういうことを考えているというような町長の考えを会議前にちょっとは教えていただいたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

まず、12ページの万博のところなんですけれども、ここでは地域活性化にも大きな役割を果たすことが期待されていると町長がおっしゃっていたんですけども、具体的に地域経済、河南町の経済の活性化に向けて今準備しとかなあかん段階やと思うんですけども、どういう準備をされていますか。河南町でどの程度の経済効果というか、どういう見込みでいますか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

万博については、大阪・関西全域ということで、特に河南町だけがどういうふうな経済効果があるとか、そういうようなことについては特に試算もしてないですし、どういう形にな

るかというのは全く未知の状況であります。

ただ大阪という地域にある河南町ですので、やはり近いところで開催される国際博覧会ということで、世界中の関心も高いということで、インバウンドでの来場とかもいろいろあるんだと思うんですが、その中で町としてどういうふうに関われるかというのは今後検討していきたいと思います。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

万博が2025年に開催される、あと300日というイベントも始まっている中で、地域経済の活性化といったら河南町にも外国の方とか観光客の方が来るもしくは万博の会場で河南町の産品がすごく売るか何かというふうにならなければ、河南町には別に何の影響もないというか、何にもないじゃないですか。別にここに書く必要もなく、じゃ、何のためにPRするのかといったら、別に河南町にメリットがないのに今まで何のPRをしてたんという話になるので、町民への地元で開催されるからみんな楽しいよねというお祭りで終わらすのではなくて、実質的な何らかのメリットが要ると思うんですけれども、そのあたりはどう考えていますか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

河南町のPRということでいろんなイベントとか、そういうようなところにも積極的に参加して町の産品のPRをしつつ、万博で町のものが使われるというような、この前もG7のサミットがあったと思うんですけれども、その中で河南町の食材を使っただけとか、そういうようなことも含めて町のPR、それからそれを使うということでの町の経済の活性化というのは一つ考えられると思います。

あとは、どれだけどういう形で関係する方が町に運んでいただけるかということについては、どんな形で進められるかというのはこれから検討したいと思います。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

あまりもう時間がないので、例えば河南町にずっと言っている日本遺産2つの観光コース

を構築してそこに積極的に導入するように、あれをしたからといってお金にはならないんですけれども、バスには乗っていただけるかなというぐらいで。何らかのことが必要やと思うので、是非考えてほしいと思います。

次、8ページの下のほうで森林環境税の使い方が小学校5年生への森林教育になるということなんですけれども、これが決まった経緯というのは学校から言い出したのか、教育長が言い出したのか、町長が言い出したのか、一体どういう経緯でなったんでしょうか。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

今年度から間伐材の処分の補助とか、いろんな形で森林環境譲与税を使ってやっていくという形は考えております。その中で子供たちの森林体験学習、こういうようなものも地球環境の温暖化とか、そういうようなものにも起因しますので、やはり勉強の材料としてはすごくいいかなと思っています。提案を受けた段階で、なかなか今の環境の問題を考える上では非常に有意義な事業かなと思っています。

以上です。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

提案を受けたということは、別に町長がこれを考えてこれをやろうぜと言ったわけではないということですよね、そこだけ。別に森林環境税の使い方どうこうじゃなくて、学校教育に関してどこまで政治が口を出すかというところの問題なので、町長から言い出してこれをやろうぜと積極的に言っていたのであれば問題やなどは思ったんですけれども、そうじゃなくて教育部もしくは教育長のほうからその話が出たということで、もしくは学校からということで間違いはないんですかね。誰でも答えてくれたらいいよ。

○高田委員長

中川教育長。

○中川教育長

今おっしゃるように決して町長からというふうな話ではなくて、今、かなん桜小学校のほうでここずっと学校林活動というのをやっています、その流れの中でそこにお助けいただいていた方々からもいろんな話があったりあるいは学校現場のほうからもさらなる充実とい

うところ辺で今回こういう話になっていったというふうにご理解いただければと思います。

○高田委員長

ほかに。

大門委員。

○大門委員

1点だけ、13ページ行財政改革を進める町としてのことを述べられてはるんですけども、バス問題が入ってきて財政問題はだんだん厳しい状況になってくる中で、デジタルの活用によるサービスの向上と、それから持続可能なまちづくりという2本の視点があると思うんですけども、それぞれどのように取り組んでいかれるのかということをお教えください。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

デジタル化は国の政策で、まず国のほうでは事務の共通化ということで、今20やったかな、20の事務を共通してデジタル化を進めて全国の市町村が同じような形で進めるというのを今構築中でありまして、それによってどこへ行っても同じようなサービスが受けられるような、最低限のサービスを受けられるような形が進められると思います。

それに合わせて町のほうでは、窓口のスマート窓口ということで、窓口に来ると簡単にいろんなことが分かるような形の仕組みを構築中でありまして。これはデジタルでの構築というか、連携するということでのデジタルということでの構築です。

あともう一つは、今、今年度から取り組もうとしているんですけども、デジタルマッピングということで地図情報のGISのシステムを使って、いろんなパソコンとかタブレット上で地図が重ねられるような形ができればというのを構築しようと思っています。それは町のPRになりますし、いろんな情報がそこに載ってきますので、行政としても使えるし、住民の皆さんも使えます。

それはなぜかという、どこに行ったら何が売っていますよと、これからイチジクの季節になるとイチジクはどこへ行ったら売っていますよというような、そういうようなものがあるような地図の中で表示できればなと思っていますし、冬になればイチゴがあるし、あと野菜がどこでどうか、ここに行けばこういう文化財がありますよと、文化施設がありますよと、いろんな情報が今まででしたら1枚の印刷分になるとそこに盛りだくさんいっぱい載せなあかんかったんですけども、そうなってくるとどうも見にくいというか、今、お店屋さんが

ここにありますよとか、今いろんな情報があります。そんなことも考えていきたいなと思っています。

あと、それをやっていく中で省力化をやることによって効率化を目指すんですが、ただ単に効率化するとそれにお金もかかってきますので、そのお金がかかるのはどうしていくかというところを考えていかなければならないと。

あとバスの財政負担もありますし、これから賃金アップによって人件費の高騰もありますし、それとあと物価高騰による物件費の高騰もあるので、少しいろんな条件が今までと少し違うような形にコロナ後はなってきたかなと。その点も踏まえたらやはり今後どういうふうな形で持続していくかということも含めて行革がどうしても必要になってくると私は予測しているんですけども、それを財政悪化とかそういう状況にならない、事前に対応していくというのが必要かなと思っています。

その上で、町として自立するとか、まずは自立しないと次のいろんな先ほどの未来協議会の話も含めて協議にのっていけないと思うので、そういうような点で町としてもそういう体制を取りながらいろんな形の枠組みをつくっていききたいと思っています。

○高田委員長

よろしいですか。

ほかに。

中川議長。

○中川議長

今回の町長の所信表明ということで、所信表明ですので今後の4年間は町長の思いはどうかと。また、これからの4年間の河南町の方向性を示されていると思いますので、少しお聞きしたいんですけども、先ほども何名かの委員が聞いておられたんですけども、大阪府の未来協議会の件ですけども、大阪府の議事概要では、令和6年度は合併に関する勉強会を設置し、2町1村にふさわしい合併の在り方など踏み込んだ議論を行うというように載っているわけなんですね。踏み込んだ議論を行うと。

今回、13ページなんですけれども、最後のところに将来の在り方について議論を深めてまいりますという町長の所信表明があるんですね。先ほどほかの委員からの質問の中で、町長がそういう形も考えなくてはならないとか、また、自治体というのは形というだけで到底決められたとかそういう線は、境界線というのはそういうのみであるという形を今お聞きしまして、私の認識では、未来協議会の中で大阪府、そして2町1村なんですけれども、その中

で森田町長のみが孤軍奮闘で河南町の枠組みを維持するということで頑張っていたというように認識が非常にあったんですけれども、その辺についてももう少し踏み込んで合併についてどう考えておられるのかお聞きしたいというのがまず1点お願いします。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

合併そのものをどうこうというのは、全然私は合併が駄目やとかいいとかという、そういう話はしておりません。ただ進めていくに当たって大阪府のペーパーが出ていますけれども、その議論もしないといけないでしょうと、議論をしないでどうのこうのというジャッジはなかなか難しいと思いますので、そういうことは進めていくよという話になっています。

未来協議会は大阪府が主導してそういう話になったんですけれども、実質的には2町1村でつくっているというふうに私は理解しておりますので、大阪府がつくったものではないというふうに私は考えております。

以上です。

○高田委員長

中川議長。

○中川議長

ありがとうございます。合併ありきではないというような形でいろんな議論をするということで捉えていいと思いますね。

そしてここでお願いなんですけれども、この未来協議会のメンバーは、大阪府、市町村のほうと、それから3首長だけありますので、我々はなかなかその内容が、最後、先ほど申し上げました概要版とかなんかでは出てくるんですけれども、後ほど、そういう意味ではこの議会に対して情報の共有化というところは是非お願いしたいなと思いますので、我々二元代表制の一役を担っております、住民代表ということですので、一番機微に河南町という枠組みがどうなるかということは非常に大きな関心事でありますので、その辺の情報の共有化というのは是非お願いしたいと思いますので、これにお答えいただきたいと思います。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

未来協議会で協議することが、先ほども出ましたけれども、事前というのはなかなか難し

いと思うんです。その中でどういう議論になっていくか、項目はあるかも分かりませんが、ですので、協議会が終わった段階で議会のほうにも情報提供に努めていくという形は今後も進めていきたいと思えます。

○高田委員長

中川議長。

○中川議長

前もってというのは難しい、今、町長がおっしゃっていただいたように結果の共有をしたいと思えますので、是非よろしくお願ひします。

以上でございます。

○高田委員長

それでは、ほかにはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

ないようでしたら、1時間経過しましたので、11時20分まで休憩としたいと思えます。よろしくお願ひします。

休 憩（午前11時10分）

~~~~~

再 開（午前11時20分）

○高田委員長

それでは、休憩前に引き続きまして、委員会を再開したいと思えます。

改めまして、先ほどの所信表明の質疑を一旦ここで終結したいというふうにお願ひします。

~~~~~

○高田委員長

それでは、次に、議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）の審査に入ります。

歳入歳出一括して説明をお願いします。

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

それでは、タブレットのほうですけれども、774の令和6年5月28日議案送付、6月定例の中の議案一式の令和6年河南町議会6月定例会議資料の87ページのほうをまずお開きいた

だきたいと思います。

議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）につきまして、事項別明細書のほうでご説明させていただきます。

87ページ、88ページは総括表になっております。89ページの歳入の事項別明細からご説明させていただきますので、89ページのほうをお開きください。

歳入の事項別明細書です。

まず、（款）分担金及び負担金、（項）負担金、（目）農林水産業費負担金、農業水路等長寿命化・防災減災事業負担金52万5千円の追加は、中地区水路の長寿命化改修工事に係る地元負担金でございます。

次に、（款）国庫支出金、（項）国庫補助金、（目）総務費国庫補助金、（節）総務管理費補助金の1点目、社会保障・税番号制度システム整備費補助金387万6千円の追加は、特定個人情報連携のための中間サーバーの更新に対する補助金で、補助率のほうは10分の10でございます。その下、デジタル田園都市交付金3,196万7千円の追加は、統合型・公開型GISの導入に対する補助金で、補助率は2分の1でございます。

次に、目の土木費国庫補助金、（節）土木管理費補助金の1点目、土砂災害特別警戒区域内住宅移転補強補助金471万3千円の追加は、警戒区域内の家屋の移転・除却・補強等に対する補助金でございます。国庫補助率は2分の1でございます。

次に、道路橋梁費補助金の社会資本整備総合交付金408万円の追加は、町道の舗装改修工事費に対する補助金で、補助率は51%、その下の道路メンテナンス事業補助金532万9千円の追加は、橋梁長寿命化改修工事に対する補助金で、補助率は56.1%でございます。

次に、（目）消防費国庫補助金の防災マップ作成等事業補助金23万円の追加は、地域版ハザードマップの作成に対する補助金でございます。

続きまして、（款）府支出金、（項）府補助金、（目）民生費府補助金、重層的支援体制整備事業補助金で508万6千円の追加でございますが、社会福祉法改正に伴う重層的支援体制整備のための移行準備経費に対する補助金でありまして、補助率は4分の3でございます。

次に、（目）農林水産業費府補助金の農業水路等長寿命化・防災減災事業補助金195万円の追加は、中地区水路の改修工事費に対する補助金で、補助率は国・府合わせて65%です。

次に、（目）商工費府補助金の観光振興支援事業補助金173万4千円の追加は、観光ガイドブック等の作成費に対する補助金で、補助率は2分の1でございます。

次に、（目）土木費府補助金の土砂災害特別警戒区域内住宅移転補強補助金235万5千円

の追加は、国庫補助金と同様でございます。府の補助率は4分の1となっております。

めくっていただきまして、90ページ、(目)教育費府補助金、教育支援体制整備事業費補助金22万3千円の追加は、町内の小・中学校に教員の業務負担低減のための事務補助員を配置する経費に対する補助金でございます。

続きまして、(款)繰入金、(項)基金繰入金、(目)財政調整基金繰入金の財政調整基金取崩し1億1,931万9千円の追加は、今回の補正予算の財源調整のために追加しております。

次に、(款)諸収入、(項)雑入、(目)雑入のコミュニティー助成金250万円の追加は、一般財団法人自治総合センターから助成決定を受けたもので、コミュニティー活動備品の整備に対する財源となっております。

次に、ライフスポーツ財団支援金100万円は、公益財団法人ライフスポーツ財団の子ども活動支援金の交付決定を受けたもので、総合体育館の芝生広場に設置を予定しております滑り台の整備に対する財源となっております。

次に、新型コロナワクチン接種助成金2,108万2千円は、令和6年度から65歳以上高齢者等のワクチン接種が定期接種化されたことに伴い、国の基金管理団体からワクチン接種費用に対し助成があるものです。

次に、(款)町債でございますが。昨日、本会議場で総務部長が説明いたしました第3表、地方債の補正と重複いたしますので、説明のほうは省略させていただきます。

続きまして、92ページをご覧ください。

続いて、歳出でございます。

まず、(款)総務費、(項)総務管理費、(目)一般管理費でございますが、(節)役務費531万8千円は、令和7年10月を目標に情報システムの標準化及びガバメントクラウドへの移行作業を進めておりますけれども、令和7年1月からガバメントクラウドとの回線接続を行った状態での作業が求められますので、回線使用料を追加させていただくものでございます。

続いて、(節)委託料のイベント等委託料100万円は、町の魅力発信、活性化のためのイベント等を実施するものでございます。

次の電子計算システム維持管理委託料81万9千円は、特定個人情報連携のための中間サーバーの更新に伴うファイアウォールの設定変更に必要な費用でございます。

次のRPA環境構築業務等委託料889万3千円は、窓口業務のワンストップ化と職員の業

務負担軽減を図るため、R P A技術を活用し、スマート窓口システムと基幹系システムとの連携構築に係る費用を追加させていただいております。次のシステム導入委託料6,393万4千円は、D X推進の一環として統合型・公開型G I Sの構築に係る費用を追加しております。

次に、（節）負担金補助及び交付金の社会保障・税番号制度システム整備費等交付金697万7千円は、特定個人情報連携のための中間サーバーの更新及びランニング経費に係る町負担金でございます。

次に、（目）企画費、（節）負担金補助及び交付金の地域活性化推進事業負担金420万円は、近鉄グループからの派遣職員に係る9月から3月までの職員派遣負担金であります。4月から8月分につきましては、当初予算で計上してはいましたが、継続して派遣の受入れを予定しているものでございます。

次に、（目）自治振興費、（節）委託料の実施設計委託料172万5千円は、弘川地区老人集会所の改修に係る実施設計費用の追加でございます。

次の（節）工事請負費の集会所改修工事1,500万円は、長坂地区老人集会所の屋上防水・外壁改修等に係る工事費でございます。（節）負担金補助及び交付金のコミュニティー助成事業補助金250万円は、旧白木小学校区の自治会におけるコミュニティー活動用の備品整備に対する助成金でございます。

続きまして、次に、（目）交通安全対策費、（節）負担金補助及び交付金の自転車用ヘルメット購入補助金20万円ですが、令和5年4月の道路交通法改正により自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となったことを受け、交通安全対策の観点からヘルメット購入費の助成を行うものであり、補助率は購入費の2分の1で上限は2千円、令和7年度末までの期間限定での補助を予定しております。

次に、（目）防犯対策費、（節）使用料及び賃借料の公用車賃借料30万1千円は、青色防犯パトロール車のうち、3地区の車両リース期間満了に伴う新車両のリース料の追加でございます。環境配慮の観点から軽のハイブリッド車を予定しております。

めくっていただきまして、93ページをご覧ください。

（款）民生費、（項）社会福祉費、（目）社会福祉総務費678万2千円は、重層的支援体制整備事業に係る費用を追加しております。社会福祉法の改正により8050問題、ダブルケア、ひきこもり等、既存の支援体制では対応し切れない複雑多様化した課題への相談体制の構築が努力義務化されたものでございます。

主なもののみの説明とさせていただきますけれども、（節）報酬で、会計年度職員として

非常勤の社会福祉士1名の報酬183万5千円のほか、職員手当と共済費を追加し、また、需用費、役務費では事務経費をそれぞれ追加しております。さらに相談支援体制の構築に当たっては、社会福祉協議会と連携を図っていく必要があるため、(節)委託料で、重層的支援業務委託料として社会福祉協議会への委託料390万円を計上しております。

次に、(款)衛生費、(項)保健事業費、(目)保健事業費、(節)負担金補助及び交付金の医療用ウィッグ等購入費補助金20万円は、がん患者の方の就労と社会参加の両立を支援するため、医療用ウィッグ(かつら)と乳房補正具の購入費に対する補助制度を創設するもので、ウィッグ、乳房補正具それぞれについて2万円を上限とした補助制度を予定しております。

次に、(目)保健予防費3,139万1千円の追加は、新型コロナワクチンの臨時特例接種が令和5年度で終了し、65歳以上高齢者等のワクチン接種が定期接種化されたため、これに伴う接種委託料を補正しております。

こちらも主なもののみの説明とさせていただきますが、(節)需用費で8万9千円、事務用品や保健事業用の印刷費を計上しております。

めくっていただきまして、94ページの(節)委託料は、医療機関に対する接種委託料3,105万6千円を追加しております。また、(節)負担金補助及び交付金で、ワクチン接種の償還払いとして24万6千円を追加しております。

次に、(款)農林水産業費、(項)農業費、(目)土地改良費、(節)工事請負費の農道水路等改良工事300万円は、農業水路等長寿命化・防災減災事業として、中地区水路の改修工事費を補正しております。

次に、(項)林業費、(目)林業振興費、(節)負担金補助及び交付金の間伐材搬出利用促進事業補助金120万円は、町内の森林から伐採した木材を搬出する際の間伐及び搬出に係る経費について補助制度を創設するもので、間伐材1立米当たり7千円、上限60万円の補助を予定しております。

次に、(款)商工費、(項)商工費、(目)観光費で378万4千円の追加ですが、観光プロモーション強化事業費を補正しております。(節)報償費10万円は、スタンプラリーの達成記念品費で、(節)需用費346万8千円は、新しい観光ガイドブックや観光ポスターの作成に要する経費を追加しております。(節)使用料及び賃借料は、デジタルスタンプラリー利用料として21万円を追加しております。

めくっていただきまして、95ページ、(款)土木費、(項)土木管理費、(目)土木総務

費942万8千円の追加は、土砂災害特別警戒区域内家屋移転補強事業に対する費用を計上しております。（節）負担金補助及び交付金の1点目、がけ地近接等危険住宅移転事業補助金850万2千円は、国の補助制度の改正に伴い、今年度から住宅の除却費用に対する補助が拡充され、前年度に比べ331万7千円を増額しております。また、その下の土砂災害特別区域内既存不適格住宅補強事業補助金92万6千円は、従来どおり住宅の補強設計及び工事費用に対する補助金を計上しております。

次に、（目）交通安全施設事業費、（節）委託料の道路施設点検委託料500万円は、町内にあります778基のカーブミラーの10年に一度の定期点検業務委託料であります。

次に、（項）道路橋梁費、（目）道路維持費、（節）委託料の調査業務委託料400万円は、町道のうち陥没が頻繁に発生する路線について路面下の空洞調査を行うものでございます。次の（節）工事請負費、町道維持改修工事3,050万円は、当初予算では計上を見送っていましたが、町道の維持改修工事費の補正でございます。

次に、（目）橋梁維持費950万円は、年次的に実施しております橋梁長寿命化改修工事の追加でございます。

続きまして、（項）河川費、（目）河川改修費でございますけれども、（節）需用費、（節）役務費のほうで事務的経費の追加のほか、めくっていただきまして、（節）工事請負費で準用河川天満川の河川改修工事費1,600万円、普通河川馬谷川等のしゅんせつ工事費360万円を補正しております。

次に、（項）都市計画費、（目）下水道費1,263万円は、下水道事業会計の補正に伴う一般会計繰出金の追加でございます。

続いて、（目）公園費の公園維持補修工事250万円の追加は、大宝公園のベンチ設置、大ヶ塚公園の滑り台1台の更新を予定しております。

次に、（款）消防費、（項）消防費、（目）災害対策費は、3,929万1千円の追加でございます。（節）報償費40万円は、コミュニティータイムラインの作成支援として講師謝礼を追加しております。（節）需用費の非常用備蓄用品64万8千円は、災害時のトイレで使用する凝固剤付排便袋の購入費であります。印刷製本費6万6千円は、2地区で作成を予定しております地域版ハザードマップの印刷費であります。

次に、（節）委託料の処分業務委託料51万7千円、施工管理委託料200万円及び（節）工事請負費の3,500万円は、現在、白木分団詰所及び備蓄倉庫として利用しております旧保健センターの屋上防水・外壁改修等の工事関連経費を追加しているものでございます。また、

(節) 委託料の一番下、地域版ハザードマップ作成委託料66万円は、2地区でハザードマップの更新を予定しております。

続きまして、(款) 教育費、(項) 小学校費、(目) 学校管理費、(節) 報酬の会計年度職員報酬37万3千円及び(節) 旅費2万7千円は、教員の事務負担の軽減を図るための事務補助員1名の配置に伴う費用でございます。

次に、(節) 委託料88万8千円は、小学校5年生の授業において森林や環境保全への関心を高めていくため森林学習を取り入れるもので、間伐体験や森林の散策、木工体験等の委託料を計上しております。

めくっていただきまして、97ページ、(目) 学校建設費500万円は、小学校2校の体育館への空調設備設置のための実施設計委託料を計上しております。

次に、(項) 中学校費、(目) 学校管理費、(節) 報酬9万9千円及び(節) 旅費7千円は、小学校同様、事務補助員1名の配置に伴う費用の追加でございます。

次に、(目) 教育振興費の教材用備品購入費381万7千円は、デジタル教材のより一層の活用を図るため、中学校の授業で使用しております大型モニター11台の更新を行うものでございます。

次に、(項) 社会教育費、(目) 社会教育総務費では、来年度に開催が予定されております大阪・関西万博へ町在住の4歳から17歳までの子供を無料招待するため、希望者の申請受付業務委託料9万2千円を追加しております。大阪府が1回目の無料招待において契約される事業者へ受付審査業務を委託する予定で、これに要する委託料となっております。1回目の無料招待は大阪府が実施され、2回目は各市町村の判断とされているところ、本町におきましては、2回目の無料招待を行っていく方針でございます。

次に、(目) 公民館費の機械器具賃借料28万9千円は、放課後子ども教室のプログラミング教室で使用しておりますタブレット端末15台分の更新に係るリース料を計上しております。

次に、(目) 図書館費、(節) 委託料の図書システム整備委託料67万6千円は、公的個人認証法の改正に伴い義務化されたマイナンバーカードの電子証明書の有効性を確認するための図書システムの改修委託料の追加でございます。

次に、(項) 保健体育費、(目) 体育施設費、(節) 委託料の実実施設計委託料150万円は、テニスコートの人工芝張り替えのための実施設計委託料の追加でございます。

次に、(節) 工事請負費121万円は、総合体育館の芝生広場に滑り台を1台設置するための費用を追加しております。その下の(節) 備品購入費の50万円の追加は、総合体育館で使

用していますワイヤレスアンプ・マイク等の更新費でございます。

次に、（目）学校給食費、（節）備品購入費139万円は、公益財団法人大阪学校給食会から貸出しを受けております学校給食管理システムの貸出し事業の終了に伴い、新たに給食管理システムを導入するための費用を追加しております。

以上、簡単でございますけれども、一般会計補正予算（第1号）の説明とさせていただきます。よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

○高田委員長

説明が終わりました。

それでは、委員の質疑を行います。——力武委員。

○力武委員

84ページ、債務負担行為補正について質問させていただきます。

来年の万博への子供招待事業ということで、令和7年度に2,241万9千円、早々と債務負担までして招待事業に参加する理由、これについてお伺いしたいと思います。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

今回、大阪の児童・生徒が未来社会の革新的な技術やサービスを体験できる大阪・関西万博、こちらのほうの1回目につきましては、学校のほうからの事業ということで参加することを大阪府のほうで事業として取り組まれておるところではございます。

今回、河南町といたしまして、2回目というところで、府下で今の段階で33の自治体が参加を表明しておりまして、本町も子供たちの未来のため、第2回目の事業というのを参加したいと考えて計上したものでございます。

以上でございます。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

大阪府からのアンケートに対しては、本町はどのように回答されたのかお伺いしたいと思います。

○高田委員長

藤井課長。

○藤井教・育部教育課長

今回、町立小・中学校についてなんですけれども、おっしゃっていただいているのは、1回目についての学校行事として大阪府のほうで招待をする事業というところで、5月の末までに各学校から参加の意向調査というところに回答するというお話の件かなと思っておるんですけれども、一応現時点では非常に情報が不足しておりまして判断が難しい状況ということはあるんですけれども、子供たちにとって最善の選択ができるようにということで、今回、参加意向を各小・中学校とも出しているということで報告を受けております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

一般質問でもさせてもらうんですけれども、要は児童・生徒を教育委員会なり町がこういう形で予算化もして参加するということは、いい悪いはともかく、今、安全確認の問題等々が、それとバスの問題、電車で行くことはちょっとままならんというふうに思うんですけれども、現地まで行く手段はどのように考えておられるのか、そのあたり答えてもらいたいというふうに思うんですけれども。

○高田委員長

藤井課長。

○藤井教・育部教育課長

移動手段についてということで、鉄道駅がないという本町の状況ですので、本町の児童・生徒につきましてはバスでの移動ということ想定しております。ただ具体的には、保護者負担軽減の観点も含めて今後の検討になるかなと思っております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

貸切バスで移動することになると思うんですけれども、今、各地区が難儀してはるのは、バスの確保が可能かどうかという、インバウンドが相当来ていますよね。外国人の観光客が来ていますよね。それと万博が重なって何百万円という予定がされているんですけれども、そのバスの確保ができないという自治体も実際に昨日の報道では出ているんですけれども、実際に確保できるのかなという可能性の問題はどうなんですか。

○高田委員長

藤井課長。

○藤井教・育部教育課長

おっしゃっていただいているとおり、バス関係、物流関係も含めて運転士不足という世間的な状況がございますので、現時点で来年度、これはいけるよという事業者はなかなか難しいと思うんですけれども、この件以外も含めていろんな情報というのが不足している状況ですので、そういったところをまた我々も府教育庁からも情報提供を受けたりとか、あとバスの件に関しても学校とも連携しながら今後検討していきたいなと思っております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

最悪、貸切バスが確保できないという状況になった場合は電車等の乗り継ぎで行く計画なのか、そのあたりまでは最終判断されているのか、それを確認したいと思います。

○高田委員長

藤井課長。

○藤井教・育部教育課長

観光バスというところで、まずは事業者のほうを当てることになるかなと思っておるんですけれども、このバスという中には、よその市町村とはうちは状況が違う面もありまして、例えばスクールバスを校外学習のような形で使えるかどうか、そういったところも検討の選択肢としてはあるのかなとは思っております。

電車での移動というところもちろん選択肢としてはあると思うんですけれども、引率の困難とか、様々な課題等があると思っておりますので、その辺も含めて今後の検討かなと思っております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

非常に情報が交錯していて、今、判断としては非常に委員会としても難しい判断かなというふうに思うんですけれども、とにかく児童・生徒の安全を大事な視点で捉えて再考というか、参加する線も含めて再考していただきたいなという思いは、私の意思表示はさせていただきたいなというふうに思います。

次に、93ページなんですけど、重層的支援委託料390万円ということで計上されております

けれども、これは8050問題との関連があるかというふうに思うんですけれども、具体的にどのような取組を考えておられるのか。この重層的という言葉は初めて出てくるかなというふうに思うんですけれども、このあたりの社会福祉協議会に委託するということですので、こういった内容で考えておられるかお聞きしたいと思います。

○高田委員長

和田課長。

○和田健康福祉部副理事兼高齢障がい福祉課長

重層的支援事業ということで予算計上させていただいておりますけれども、国では地域共生社会の実現に向けまして包括的な支援体制を構築するため、属性を問わない相談支援、それから参加支援、それから地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業が進められているというところでございます。

これを踏まえまして、本町でも現状において今おっしゃっていただいたような8050とか、対応の難しい複雑化・複合化した課題というものもございまして、そういったものに部局横断的な連携ですとか、相談支援事業者、当然社会福祉協議会、それから各支援機関などとの連携を図りながら、支援体制の一層の構築を目指していくためにこの事業に取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

そして、主にこの重層的支援体制の整備事業では、先ほど申しました属性を問わないような横断的な相談支援と、そこの相談支援を踏まえた参加支援や地域づくりに向けた支援というふうなところの取組を進めていくことになるんですけれども、他の町村の事例なども参考に検討したんですけれども、本町におきましても、アウトリーチによる参加支援、地域づくりにつきましては主に社会福祉協議会が担っていただくと。あといろんな機関が協働して相談支援を担っていく、その向上を図るという部分につきましては、主に町が担うという役割分担を考えてございます。

そのように考えた事情ですけれども、本町では地域包括支援センターが直営でありまして、障がい者、介護など各分野だけではなくて、総合相談支援を町が担っているというふうな前提、事情がございまして、事案に応じた庁内関係各課や大阪府をはじめ行政機関との連携という点でも町が主に担うのがスムーズと考えてございまして、相談支援の部分を主に町が担うということで考えてございます。

それに基づきましてこういった支援をしていこうというふうなことが具体化されるんですけれども、その中で、その次の段階としまして社会福祉協議会ですけれども、社会福祉協議

会も現状、地区福祉委員会などと小地域ネットワーク活動を推進されるとともに、各地区の福祉委員会、民生委員児童委員、それからボランティアの組織など、多くの地域福祉団体の事務局として地域とのつながりを持たれているのが強みでございます。また、令和5年度から順次モデル的に各地域に出向いて課題解決への取組も行っておられます。

このような事情から、アウトリーチで地域の福祉関係者とも連携した地域づくりですとか、継続的な参加支援などについて社会福祉協議会が主に担っていただくというふうな役割分担で考えてございます。ただ町と社会福祉協議会は両輪でございますので、明確に相談は町、地域づくり等の参加支援が社会福祉協議会と分かれるものではなくて、現状でも相談支援も協力しながらあるいは地域の資源づくりについても社会福祉協議会と包括が協力しながらというふうな面もございますので、両者一体となって進めていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

やろうとしていることは非常に大事なことやというふうに理解しているんですけども、ただ具体的に今社会福祉協議会に委託するにしたって社会福祉協議会の職員間で賄い切れるのかという問題意識が私自身は持っているんですけども、そのあたりはどうなのかということと、このことをやることによってプロパーの配置などは考えておられるのかどうかお聞きしたいというふうに思います。

○高田委員長

和田課長。

○和田健康福祉部副理事兼高齢障がい福祉課長

本町におきましても、町に1名と社会福祉協議会に委託しますが、その中には1名の配置ということで、合計2名の配置、体制整備ということを考えてございまして、近隣でも先行して既に実施されております太子町、千早赤阪村の両町村におきましても、2名の職員を配置して重層の取組を始められているというふうなところでございます。

確かに認知症の問題ですとか、虐待の案件が増加しておりまして、そこに生活困窮ですとか、近所とのトラブルなどの事情が重なるなど、複合的で長期的に関わる事案も増えていきますし、今後さらに増えていくものというふうに思われます。

また、支援を継続していくためには、地域の民生委員などに関わっていただいて、継続的な支援体制の仕組みづくりというふうなことも必要でございます、これは簡単なことではないなというふうに思っておるんですけれども、いずれにしましても、町のほうの1名、社会福祉協議会のほうで1名というその1名それぞれが単独で、その方だけが単独で動くというわけではなくて当然町の今現有の包括の職員ですとか、社会福祉協議会にも職員がいらっしゃいますので、今現状の相談支援ですとか、地域の資源づくりとか、そういったことに現状でもいろいろな取組は進めさせていただいておりますので、さらに1名を増員させていただいて、そのマンパワーもプラスして全体として取り組んでいくということで、その1名だけということではなくて、この1名を増員することで社会福祉協議会としても対応していただけるものと考えております。

そして、プロパーの職員というお話だったと思うんですけれども、一応委託料の前提としまして、社会福祉協議会の職員につきましては、正職の職員を配置していただくというふうな前提で考えてございます。

以上です。

○高田委員長

すみません、ひとつ理事者の皆さんにお願いしたいんですが、簡潔明瞭にできる限り説明のほうをいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

すみません、途中でありますけれども、もうすぐお昼になってまいりますので、これから午後1時まで休憩に入りたいと思っております。よろしく申し上げます。

休 憩（午前11時59分）

~~~~~

再 開（午後 1時00分）

○高田委員長

それでは、皆さんおそろいになりましたので、これから休憩前に引き続いて委員会を再開したいというふうに思います。

なお、町長は1時半前からしばらくの間、公務のため委員会を不在となりますが、不在のまま委員会は進めたいというふうに思っております。何とぞご了承ください。よろしく申し上げます。

それでは、力武委員、途中からですか。どうぞ。

○力武委員

同じく93ページなんですけれども、医療用ウィッグ購入助成、2万円上限という説明なんですけれども、補正具とウィッグ、がん患者の更生に必要な道具なんですけれども、それぞれの説明会では上限2万円と、1人だけかなということであって、確認をしたら、ウィッグと補正具と両方いけるという話なんだけれども、その確認だけさせていただきたいなというふうに思います。

○高田委員長

辻元課長。

○辻元健康福祉部副理事兼健康づくり推進課長

ウィッグのほうは上限2万円と、乳房の補正具については左右ありますので、それぞれされた場合は、それぞれ上限2万円ということになります。右をされて補正具が必要でしたらそれを上限2万円で補助させていただいて、もし転移等でもう片方もされた場合は上限2万円ということで、3つありますので最大は6万円まで、それぞれ2万円上限ということと考えております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

今の説明では、2万円上限は1つの装具掛ける3つという形で理解したらいいということやね。

○高田委員長

辻元課長。

○辻元健康福祉部副理事兼健康づくり推進課長

それぞれ上限2万円ということで今考えております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

次に、94ページなんですけど、農道水路等改良工事で中地区の整備が計画されておりますけれども、これ、規模的にどの程度になるのかということと、先ほどの説明では国、府が65%、残り35%がどういう内訳になるのか、まずお聞きしたいというふうに思います。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

中水路改修工事なのですが、規模は水路工で18メートル予定しております。負担割合ですけども、先ほどの説明もありましたように国が合わせて65%、残り30%を17.5%ずつ、町と地元の負担という形になっております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

これの残りの17.5%のうちの受益者負担というか受益者数はどれぐらいの範囲に想定されているんですか。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

この中水路の改修工事なのですが、中地区全体の水路を対象として、令和2年に機能診断を行っております。そのうち要改修区間というのを特定いたしまして、そこを改修を順次進めている関係上、受益としては中地区全体という形になります。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

ということは、17.5%の負担というのは中地区全体で負担していただくということで、個々人の負担というのは、発生しないということで理解していいんですか。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

中地区として負担いただいておりますので、個々人の方の負担、回り回って最終は個人さんの負担になるんですけども、直接の負担はないという形になっております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

最後ですけども、97ページ、テニスコートの改修工事が計上されていますけれども、このコートの種類は、調べた範囲では5つの種類があるんですね。グラスコート、クレーコ

ート、ハード、オムニ、カーペットという種類があるらしいんですけども、今回改修しようとしているこのコートは、どういう形でどういうものを採用しようとしてはるのか、お聞きしたいというふうに思います。

○高田委員長

森課長。

○森教・育部生涯まなぶ課長兼中央公民館長兼図書館長

今回、来年度にコートを変えるということで、実施設計のほう、予算を上げさせてもらっているんですけども、種類としましては、今引いております人工芝になります。こちらのほう、人工芝にしている理由としましては、今お使いいただいている利用者からもいろいろご意見聞いた上で人工芝にさせていただいているんですけども、かなり膝・足に優しいというところで、引き続きこの今引いている人工芝を張り替えたいと考えております。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

この人工芝の耐用年数が大体6年から7年ぐらいというふうに、平均的に言われていますけれども、このサイクルでやるのと、例えば、ハードコートにした場合はもっと耐用年数が長くなるんじゃないかなというふうに思うんですけども、そのあたりは、これにしたというのは、長もちすることとの関係、あるいは使い勝手の問題等々あると思うんですけども、利用者の声の反映という形で理解したらいいんですか。

○高田委員長

森課長。

○森教・育部生涯まなぶ課長兼中央公民館長兼図書館長

力武委員おっしゃるように、利用者の声を第一に考えまして、やはり今使っておられる方々もこの人工芝が一番いいというような声を反映させてもらっています。参考までに、前は平成24年度に全面張り替えさせてもらってしまして、かなりもう耐用年数を過ぎておりまして、今現在かなり剥がれているところが多くございますので、安全性等を加味も、今回上げさせていただいた次第でございます。

以上です。

○高田委員長

いいですか。

ほかに。

大門委員。

○大門委員

今、力武委員の質問に相関連して質問させてほしいんですが、今、中地区の水路改修のお話が出ていましたが、ではなぜ地元負担金が生じるのかということをお教えください。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

土地改良法に基づく事業でありまして、いわゆる公共事業という税金でもって賄う事業ではなしに、特定受益者のための工事という形になりますので、その受益分に応じた負担をしていただくという形になっております。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

では、機能診断していただいたというのは、それは中地区から申出があつて、機能診断していただいたということで理解したらいいんですか。それとも町のほうから、これ、長寿命化とか防災・減災ということで補助金が出ているんです。町のほうからのあれで機能診断されたということでいいのでしょうか。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

水路等々の老朽化に対しましていろんな相談が寄せられるわけですがけれども、その中でどういった補助事業を使って地元の負担をいかに少なくしてという議論の中で、この農道水路等長寿命化減災・防災事業、これに乗るために全体を一度機能診断したという形になります。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

そしたら、次、河川改修のほうでお聞きしたいんですが、96ページ、今回も河川浚渫事業と河川改修工事というのが行われて、これ、何年もかかってやっていたいんですが、

なぜこのような事業が何年もかかってやっていかなあかんのかという理由を教えてください。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

水路と、一方で天満川、こちら準用河川でございます。河川法に基づく指定をしておる河川ということで、流域が広い河川という形になっております。ですので、特定受益者のための工事ではなく、広く公に利する工事ということで、全額公費でもって工事をさせていただいております。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

公の工事ということなので、長々にかけてやっていくということですので、やってもらったら、そしたらどういうふうな効果が出てくるのかということもお示しいただければと思います。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

こちら補正予算を上げさせていただいている河川改修工事と河川浚渫工事に関しましては、改修に関しましては台風や大雨等々の異常気象時に対する護岸保護といいますか、周辺地域への影響というのを食い止める防災というような側面がございます。それと浚渫につきましては、通水断面の確保によりまして通水をスムーズにする溢水対策といいますか洪水対策というような側面がございます。総じまして河川の事業に関しましては防災という、治水という面で進めさせていただいております。

○高田委員長

よろしいですか。

大門委員。

○大門委員

96ページの教育費のところでお伺いします。今回、小学校費とか中学校費、社会教育費などそれぞれ計上してもらっているんですけども、先日、私たちの会派で、勉強会で教育大綱とか基本理念というのをちょっと触れてお話しいただいたので、教育長、すみませんが、

もう一度、メモできなかつたこともあつて、教育大綱の基本理念について説明をお願いしたいんですが、よろしいでしょうか。

○高田委員長

教育長。

○中川教育長

この間、すみません、各会派勉強会の際、少しその理念といいますか、教育大綱で示した基本理念の達成に向けて、改めて教育に携わる者が確認をしたい、そしてその確認するに当たってもよりどころをつくりたいというのが、この間説明申し上げた河南BEAMの基の考えです。なので、ちょっと今、これ、ごめんなさい。もうこれまた近々、皆さんのところにもお持ちしたいなと思っているんですが、ちょっとこの間お見せしたのとまた若干違うと思うんです。まだちょっと微調整していたので、この間お配りすることができなかつたんですが、要はこの一番下にある「一人ひとりが輝き笑顔あふれる人づくり」というのが去年度から5年間かけて達成したいという、河南町の教育大綱の基本理念です。

これを達成するために、今現在、それぞれ我々のところでも施策を打って、予算もいただきながら実施していると。なので、今この名の下に新しい事業を展開するとかいうことではないんですが、今、実際やっついこうとしている、あるいは既存の施策について、再度その実現をよりよく実現するために、改めてこういったものを確認しようじゃないかというので、例えばうちでいうと4課ありますので、その4課がそれぞれの施策があります。それぞれが一生懸命やっていたんですが、今まで以上にこのつながりを考えながらやっついこうじゃないかということ、そして、その中でも一つの共通の理念として河南BEAM、BEAMという頭文字の中に意味も込めていまして、Bというのはベスト、Eというのは、エンパワーメント、そしてAがアクション、最後Mがメイクアップということなんですね。

ベストというのは、これはいつでも使うことですが、とにかく今できる最善を尽くそうということです。これはもうコロナ禍を経験して改めて感じることもありますが、様々な制限があったり、そのときそのとき、常に常に、理想ばかり追い求めることはできないかもしれません。でもその条件の中でできることを最大限に考えていこうということを確認しよう。

それから、エンパワーメントというのは、これは子供たちに触れる仕事ですので、子供たち、なかなかまだまだ発揮できていない力とか、そういうのをやっぱり教育に携わる我々がそういう視点で引き出して、そしてその子がもっともっと活躍できるようなという視点で関

わっていこうと。

そしてアクションは、いろんなことを施策で考えるんですけども、考えて考えた挙げ句、そのままになってしまわずに、とにかくやっ払いこうと。その中でまた修正すべきところは修正していったらいいし、そして最終的にメイクアップしていこうというふうなことを、様々な施策の中でもう一回再度確認しようというのが今回のこの河南B E A Mの計画です。なので、今後はこれに向けて、例えばこの名の下、よりよい新しい施策を構築できたら、それに対して予算が必要であれば、予算獲得に向けて我々も努力していきたいと思っていますし、既存の施策についてもこの考えを基に、より実現するように力を尽くしていきたいというふうな考えでこの間説明させていただきました。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

今お示しいただいて、ちょっと分かったんですけども、そこに丸を書いてつなげると書いてくださっているじゃないですか。じゃ、つなげる役目は誰が担うのかということ、例えば教育委員会が引っ張っていくのか、そこのところをもうちょっとだけ教えてください。

○高田委員長

教育長。

○中川教育長

つなげるというのも、言うたら関わる人それぞれみんながつなげようという意識を持つということでございます。誰かが指示してやるのではなく、やっぱり携わっている自分の仕事を全うする中で、当然つなげていくほうが絶対いいだろうというところでは、自主的につなげて行ってほしいと。誰かの指示を待つとかではなくて、みんながそういう意識を持つという、そういう意味でのつなげていこうということです。

○高田委員長

よろしいでしょうか。ほかに。

松本委員。

○松本委員

92ページの6番目の企画費の地域活性化推進事業負担金420万円、今回補正で出てきますけれども、これ年間でいきますと886万円、約900万円近くをやるということで、これは先ほど内容を聞いたら、近鉄グループとの連携だというふうに聞いていますけれども、これ

はこれでいいと思うんですけども、近鉄グループとの連携はもう以前からもやっているしということもあって、まず、以前のその成果というのはどういう成果があったのかなというのをちょっとお聞きしたいなと思っています。

それから、今回さらに継続してやるということについては、どのような成果を求めようとされているのかということについて、ちょっとお聞かせください。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

近鉄グループとの成果というところではございますが、まず、魅力発信につながる手法というところを企業の理念、視点からいろいろと話をさせていただいておきまして、まず目に見えてくる成果というところではいきますと、昨年9月から、あべのハルカス地下2階のほうで毎週金曜日になりますけれども、河南町のコーナーというのを設けていただきまして、今、河南町の野菜等の販売につながっており、今現在も毎週金曜日、販売のほうにつながっております。

さらに、今まで輸送するというのが一番問題でありました。車で運ぶといいましてもなかなか毎週行くとなるとかなりの負担が出てまいりますので、その点につきましても近鉄グループのほうの引き合いといいますか、紹介によりまして近畿配送サービス株式会社、近配とよく言われる運送のほうの系列会社なんですけれども、そちらのほうの南河内方面のルートを活用して、阿倍野のほうに輸送することができるというルートの獲得であったりというのが目に見えるような効果があったかと思えます。

そのほかにも、近鉄百貨店等に入っております事業所と連携して、町内産の果物、野菜を活用した商品の展開というのをしております。これまでもマルシェであったりいろんなところで来ていただいたりしておりますが、それだけでなく、今それぞれの会社がお持ちといいますか、自社の店舗のほうにおきましても企画的にやっております。先日も母の日イベントといいますか、5月の中旬ですけれども、母の日のパンづくりといいますか、企画品というのでも展開していただいていた状況にはあります。

今後につきましては、道の駅の拡張エリアというところの課題というのがすごくやはり残っております。近鉄グループのほうのお力をいただいているような企業、今現在のところ約40社ぐらい、交渉のほうに私も全てが全て一緒に同行できていないところはあるんですが、約40社の企業と交渉させていただいて、道の駅拡張エリアのリーシング活動というのは行っ

てきておりますが、今後も引き続きリーシング活動というのは行っていった、先日、先ほどよりいろいろご質問いただいておりますとおり、道の駅のいち早く活性化に向けたような取組というのは、引き続きやっていきたいと考えております。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

分かりました。一応今までのように、1年間ではそれなりに効果が現れているということで、農業者の方のやっぱり販路が拡大しているということで考えといていいのかなというふうに考えていますけれども、それでよろしいんですね。

○高田委員長

質問ですか。

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

ちょっと今先ほどは1例の説明のみとはなりましたが、それだけでなく、様々な販路の拡大というところには取り組んでいった、野菜をつくっても道の駅しか売るところがない、ではなく、いろんなところでこの販路が拡大していけるような取組というのは引き続き行っていきたいとは考えております。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

それともう一つ、道の駅の拡張エリアですけれども、これは具体的には、今ある道の駅をどちら側に拡張しようとしているんですか。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

拡張エリアといいますか、今、駐車場の整備をしたあのエリアにはなっております。もともと地産地消が望めるようなレストランといいますか飲食店が、今、道の駅では休憩する場所が少ないとか飲食する場所が少ないというところで、これまでリーシング活動であったりサウンディング調査をいろいろやってきたところではあります。

まだまだいろいろとリーシングしている中で、企業側からは交通量の問題、特に昼間は一

定の通行があるんですけれども、夜の通行量が格段に落ちてしまうというところで、河南町のほうに出店に至るような投資というのがなかなか厳しいというような意見もいろいろいただいておりますが、今の企業側の状況もいろいろ踏まえて相談しながら、よりよいものを考えていきたいとは考えておるところです。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

分かりました。本来は近鉄グループ自身がそこでちょっと何か出店してやれよと言ってくれば一番いいんですけれども、そこまでいかないから一応取りあえず40社の企業に当たってもらっているというところですね。是非早めに有効活用できるようにお願いしたいと思います。それは要望しておきます。

続いて、94ページの委託料、これは各種予防接種委託料、一つは、メインとしては新型コロナワクチンの定期接種となっている、65歳以上のワクチンだというふうに聞いておりますけれども、これは具体的には、この秋以降だというふうに聞いていますけれども、大体人数はどれぐらいの人数を想定されているのかということ、私は、実は去年の2類から5類に移行した後は、治療費はもちろん、こういうワクチンの接種料も個人負担だというふうに理解しているんですけれども、結構このワクチンを打つには、金額的には高いと思うんですけれども、まずワクチンを打つについて1人当たりの個人負担というんですか、どれぐらいの金額が要るのかということをお聞きします。

○高田委員長

辻元課長。

○辻元健康福祉部副理事兼健康づくり推進課長

まず想定しております人数ですけれども、2,540人、今のところ予算上は想定させていただいています。自己負担なんですけれども、今のところ国から示されているのは、総接種費用としては1万3,500円、示されておまして、かなり高額になっております。そのうち、3千円の自己負担を求めていくということで、富田林医師会管内で今調整をしているようなところなんです。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

分かりました。本来なら高いけれども、取りあえず個人負担としては3千円で終わるような形に今これから検討していくということですね。

○高田委員長

田村部長。

○田村健康福祉部長兼総合保健福祉センター長

先ほどの答弁の中で、ワクチン接種料総額というところで1万3,500円ということでお答えさせていただいたと思うんですけども、正しくは1万5,300円。

(「高い」の声起る)

○田村健康福祉部長兼総合保健福祉センター長

高いんですけども、国のほうが各ワクチン業者に調査をしたところ、そのぐらい、1万5,300円かかるというところで、大きな額になっております。そのうちの今のところ富田林医師会管内で調整していますのは、お1人につきご負担いただくのが3千円ということで、そのような形に今、想定としてしております。

以上です。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

いずれにしても、これ3千円と言ってもやっぱり65歳以上の高齢者の方ですから、なかなかやはり年金で生活されている方がほとんどだということをお考えますと、一方で65歳以上の人はコロナにかかりやすいということもあって、やっぱりできたらワクチン接種したいなという人が増えると思うんですけども、これやっぱり3千円ではまだもうちょっと高いなと私は考えているんですけども、ちょっと私いろいろ調べたら、例えば群馬県の高崎市では個人負担を1,500円にするというようなことも発表しているんですね。やはりできるだけお年寄りの方にワクチンを接種してもらって、できるだけかかっていかないような形にしたいということなんかも朗々と打ち上げておられるんですけども、この辺のところについて、河南町としてはもう少し援助を負担してあげるというような考え方はあるのかどうか、最後にお聞きします。

○高田委員長

辻元課長。

○辻元健康福祉部副理事兼健康づくり推進課長

現在4市町村で調整しております、統一して富田林医師会管内での費用は3千円ということで今調整中ですが、今、インフルエンザは千円ということでさせてもらっていますけれども、その概ね総接種費用は3倍以上かかっておりますので、その3千円ということで今調整させていただいているところです。町としても、より安くなれば打ちやすいかなと思いますけれども、4市町村で調整していきたいと思っております。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

4市町村ということは分かりますけれども、一応、私、いろいろ聞いていますと、やっぱり河南町はお年寄りに優しい町だと聞いているんですよ。そういうことも踏まえて、できるだけやはりほかの自治体がやっておられるような形で、もう少し補助をしてあげて、お年寄りを大事にしてあげてほしいなということで要望しておきます。よろしくをお願いします。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

92ページの先ほど松本委員もおっしゃっていたんですけれども、近鉄グループの人にやってもらったこととこれからやってもらうことというのはよく分かったんですけれども、これ販路拡大して、近鉄百貨店の中で、ハルカスの中で、毎週置いてもらってとかはすごいいいんやけれども、これ、この人返したときに返した時点で急にそっぽを向かれるとか、そういうことはないと言い切れるんですか。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

ないと言い切れるのかと言われるとつらいところがありますが、逆に私は、なくすじゃなくて継続していけるというような関係性を持ちながら進めていきたい、要はうちがせっかく用意していただいた場所がありますので、切れ目なくといたしますか、必ず継続はしていかないと、一回手を抜いちゃうと止まってしまうんじゃないかという考えを持っていますので、継続して取り組んでいって、やっていきたいとは考えています。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

いてる間は安泰、言うたらこれ、置かせてもらう量みたいなどころもあるのかもしれないですね、じゃ。ちゃんと、おらんくなっても置かせてなという契約とかで約束できないんですか。今だけじゃなくて、ちゃんとやってなというのは言えないんですかね。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

置くに当たりまして、近鉄と河南町という契約ではないですが、今、道の駅から発送していておりますので、近鉄と道の駅と契約といいますか何というんですかね、販売の覚書といいますか、そういうのは取り交わして進めていております。その中で、量というのは、ボリューム。利用料とか期間。期間のほうにつきましても今、毎週金曜日ということで取決めをさせていただいておりますが、一番やはり問題となってくるのは、これからも、相手もやはり民間ですし、来ない河南町のためにいつまでもそのスペースを空けておくというわけにいかないの、一定の配送できるようなボリューム等は担保するように頑張っていきたいとは調整しているところです。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

よく分かりました。よく分からないところはあるんですけども、継続してできるようにという視点で取り組んでいただけたらなと思います。せっかくハルカスに置いてもらって、関係ない河南町民も喜んでいるのを聞きますし、もちろん道の駅の方たちも喜んでいるのを聞くので、よろしくお願いします。

次は93ページの重層的支援の話なんですけれども、力武委員からおっしゃっていたんやけれども、社会福祉協議会の人390万円、役場で会計年度任用職員の人183万円という予算でやるんですけども、これ2人合わせて573万5千円なんです。そしたら1人の役場の正職を雇うということも、別に社会福祉協議会に正職を1人雇うのであれば役場で1人正職を雇ってしっかりそこで働いてもらうということもできだと思っんです。それをいろいろ理由は述べてくださったのでいいんやけれども、やっぱりそれを聞いてでもそうすべきやったかなとは思っています。

社会福祉協議会で1人、役場で1人来られた方というのは、この事業だけに特化して、こ

れだけをやらはるんですか。

○高田委員長

和田課長。

○和田健康福祉部副理事兼高齢障がい福祉課長

今現状も、相談支援とかいろいろな地域に活動の場をつくるとか、そういった折には、現状の包括の職員も社会福祉協議会の職員も複数当たらせていただいています。今回、より支援を充実していくために1人ずつ増員をしますけれども、1人が単独で行動するというのではなく、やはり地域に入り込んでいろいろやっていくとか、1人だけが相談に応じるとか、そういうことではなくて、結局社会福祉協議会包括全体として、今回1名増員していただく部分を生かしながら、より今の現状のサービスの底上げといえますか、そういった充実を図っていくというふうなことで、1人が単独で動かれるということではないです。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

要はチームメイトが増えるという、全体、これだけに特化せずにいろんな事業をやるチームの仲間が増えるというイメージなのかなと説明聞いて思うんですけども、それやったらなおのこと正職を1人役場で雇ったほうがよかったと思います。でも多分言っても平行線なので、これはもう要望しときます。そういう思いがあるということは伝えておきます。

次に、94ページのデジタルスタンプラリー云々の話なんですけれども、スタンプラリーをアプリでやるというふうに聞いています。今までも観光アプリ、災害アプリ、何かいろいろと役場に絡めてやっているじゃないですか。またアプリが増えるのかと、何でもアプリに頼るのかみたいな、地図一つにするんやったらこんなも一つにしたらええんちゃうかと思うんですけども、どうでしょう。

○高田委員長

中海課長。

○中海まち創造部副理事兼農林商工観光課長併農業委員会事務局長

このデジタルスタンプラリー利用料の21万6千円ですけれども、導入するというよりも、一定期間利用するという形での利用料になります。今回のこのアプリにつきましては、21万6千円の内訳としては、まずアプリのほうに河南町の観光の案内の掲載をしていただく、この費用がまず16万円ほどかかります。それと、このアプリを使っていた方の動向等、

いわゆるどれだけ河南町に滞在いただいたかという形のそういうデータの分析をお願いしようと、そのデータを生かして今後の取組に生かしたいなという形で考えております。

一本化のお話もあるんですけども、いろんな利用ができる、本来これを利用するには掲載も何もなければ無料でできるようなアプリにはなります。ただちょっと同じするのであれば、こういうアプリの中でPRもできるということで、ちょっと利用料を今回計上させていただいております。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

ということは、もう既にそのアプリというものは存在していて、そこに河南町が乗っかるの26万円かかると。ちなみにそのアプリの名前というのは何ですか。

○高田委員長

中海課長。

○中海まち創造部副理事兼農林商工観光課長併農業委員会事務局長

今想定していますのがスポットツアーというものです。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

ちょっとそのアプリは後でググるとして、次の質問にいくと、96ページの公園のベンチ、公園改修費用ですね。これ勉強会のときも申し上げたんですけども、ベンチがそんなめっちゃくちゃ古くなって座れないような状態ということではないと思うんですね。何ですか、そういう、いや、座れなくはない、みんな座っていますもん、だって。座っているんですね。それやったら、勉強会のときにも申し上げたんですけども、大宝公園3段あるうちの一番上に水道設備をつくってほしい。5丁目の自治会でよくあの公園を使うときに、一番上のところで夕涼み会であったりとか、何かたこ焼き焼いたり綿あめやったりとかいうことが多くて、水の運搬というのを中腹のところから持っていつているような状態なんですね。なので、いや、もちろんベンチも新しくしていただいたらありがたいんですけども、それやったら水道を新しくしてほしいというふうにも思っていますので、次に何かこういうのがあるときには水道も検討していただきたいんですけども、どうでしょう。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

公園施設の整備なんですけれども、地区のほうからベンチを置いてほしいということでご要望はいただいております、ただ、今のところ、据置き型のベンチを考えておるんですが、その辺につきましては地区のほうと協議いたしまして、決定していきたいなとは考えております。それと水道につきましては、今、大宝公園は、3段目一番下のところに水道メーターが実はありまして、そこから2段目に上がりまして、今、コン柱が1本あるんですけれども、大宝校区配水池からの水頭圧の関係で、あまりあの周辺の方、水圧がないかなと思っておりまして、今のコン柱からまた延長して、恐らく50メートルか60メートル離れているんですね、そうすると管内の摩擦とか水道圧がだんだん下がっていきますので、果たして水が出るかどうか、その辺のところからちょっと検討しないといけないかなと思っております。

以上でございます。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

検討してください。水が出ないことは多分ないと思うので、先進国なので、よろしく願いします。

ベンチを置いていただくのは結構なんですけれども、ちょっと前にはやった、災害のときにいざとなったら何か使える、かまどになるとか、そういうようなやつあったじゃないですか。そういうのも考えてほしいなと思うんですけれども、どうでしょう。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

ただ単にベンチを置いてほしいというご要望でしたので、仕様のほうはまだ決定はしてはおりませんので、その辺はまた地区のほうと詰めていきたいなと考えております。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

同じく96ページで非常用のトイレを500人分、1日7回を3日分買うみたいな、誰やったか、という話を聞いたんですけれども、でも何か初めは半分だけ買うみたいな、何かすごい

ややこしい話だったんですけれども、これは500人分とかそういう数字の根拠をどういうふうに考えて、そうなったんですか。

○高田委員長

木矢室長。

○木矢総合政策部危機管理室長

500人分というのが地域防災計画で避難者数を出すときにいつも使っている数字が上町断層の避難者400後半で丸めて500人というので500という根拠数字をつくっています。

あと、実際、今回、能登に職員派遣させていただいて、一番問題があったのがトイレ、トイレの備蓄というのが、水が来なくともトイレができるような形で備蓄をしとかなあかんやろうという、そういう能登に行った経験上のことで、ちょっと今回請求させていただいたという形になります。

あと、実際に能登のほうなんですけれども、ほぼほぼ災害被災されはったその日のうちに水とか来ていて、3日あったら、もうそういう備蓄品とか、よそから供給されるんですね。だから最大でも3日間は備蓄しとかなあかんという形の3日というような形で計算させてもらっています。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

実際に能登に行ったときにトイレが使えないところも割と、行ったのが発災後数か月、3か月とか4か月とかたった後だったんですけれども、トイレまだ使えるところと使えないところとあるというような感じだったのと、ひと月、2週間ほど前に2週間ほど、友人も行ってたんですけれども、そのときはマンホールトイレも使えないぐらい、マンホールだけが隆起しているような状態とかがあったとかいう話で、トイレ問題が一番シビアになってくるだろうというのは聞いているんですね。

もちろん役場でも備蓄しないといけないんですけれども、やっぱり一般の家庭に、うちでも4人家族で100回分トイレを買ったんですけれども、そういうふうにやっていくほうが、これをぽんと買ってしまおうというよりは、もうみんなほんまにちゃんと備えといてなというふうに言う必要があるかと思うんですけれども、そこはどう考えていますか。

○高田委員長

木矢室長。

○木矢総合政策部危機管理室長

基本的には、避難所に避難してきてこられた方に対応する備蓄品になります。あと、おうちで被災されはって断水等々になりましたら、おうちのほうで備蓄していただくのが一番いいと思うんです。河南町のほうも、防災リュックのほう配付させていただいてまして、その中にトイレのほう入れさせていただいているので、そういうのをご活用いただけたらなと思います。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

もちろん、避難してきた人が500人、何人になるか分からないんですけども、河南町のこの役場の職員さんの分も必要ですよ、ここで働いてちゃんとやらないといけないので。と考えたら別に幾ら備えても河南町の安全を守るには十分ではないので、それやったらみんな防災バッグを配って3日3回分入っているからいいよねじゃなくて、ほんまにこれぐらいの想定、1家族これぐらい要るから備えといてなというのは、言ったらいいと思うんですけどもという話です。

多分言ってくれると思うので、次、97ページのテニスコートなんですけれども、力武委員もおっしゃっていたんやけれども、これ、スポーツくじ助成金で、今までどういうことに使ったという履歴、ありますか。何年に1回ぐらい、これが回ってきて何に使ってきたのかというのは。

○高田委員長

森課長。

○森教・育部生涯まなぶ課長兼中央公民館長兼図書館長

何年に1回という決まりはございませんでして、こちらで必要となった場合、都度都度推薦させていただいております、ほぼ通る形となっています。直近ではバスケットゴールの購入、あとはぷくぷくドームのトイレの改修等がございます。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

テニスコートの芝とかやったらスポーツ振興助成金、すごいイメージつきやすいんですけども、バスケットゴールとかでも。ぷくぷくのトイレと言ったら、別にそんなにスポーツ、

あそこはスポーツだけじゃないので、使っているのが。イメージがつきにくい用途でも使えるという幅広いものなんですよ。かなんぴあの空調とか、あれこれに使うというのはできないんですか。できない理由も教えてください。

○高田委員長

森課長。

○森教・育部生涯まなぶ課長兼中央公民館長兼図書館長

一応このt o t oというのはスポーツ助成金、スポーツくじというところで、スポーツ施設というところ、体育施設というところで限定されているかなと思うんです。

○高田委員長

体育施設。

ほかに。

大門委員。

○大門委員

92ページの自転車のヘルメットの購入補助をやっていたらいいんですが、期間限定で上限2千円で2分の1というふうに、ご説明してもらったんですけども、対象者はどういうふうになるのかということと、これ申請するんやったらどういうふうにして申請するのかという申請方法が分かっていたら教えてください。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

対象者につきましては、特に年齢制限は設けない方向で考えております。

あと、申請方法ですけども、基本的にはまず電子申請といいますか、L o G oフォームというシステム、町も持っていますので、それを活用してやっていきたいと。どうしてもできない方もいらっしゃいますので、その場合はその場合でまた対応は考えたいと思いますが、今のところはそういう形で想定をしているところです。

以上です。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

期間限定というのはいつ頃までに買わないといけないんですか。もし買いたいと思ったと

きは。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

今これ予算を上程させていただきまして、可決いただいたとしての話になりますが、それからまた要綱等を制定しますので、そうしますと、早くても大体8月頃からスタートかと考えています。それから年度末までという形で期間限定となります。詳しくは、ちょっとその動向をどれだけ圧縮できるか、早くできれば早くしたいとは考えております。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

それから95ページの道路施設点検事業で、カーブミラーを外部委託されるということでしたが、これって町内にどれぐらいカーブミラーがあるのか、分かっているんやったら教えてほしいのと……

(「書いてある」の声起こる)

○大門委員

書いてある、ごめんなさい。見ていなかった。では、あれしたときには、補修作業なんかもその都度やっていかれるのかということをお教えください。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

基数のほうは表示のとおりです。すみません、ちなみに778基、カーブミラーがございます。点検ですが、今後の話にはなるんですが、増し締め程度の簡単なものでしたら点検のついでにやっていただくというような形は、現在想定しております。あと、鏡面の掃除ですね。水を吹きかけて拭いて回ると、点検のついでにできる程度の作業にはなりますけれども、そういうものを考えております。

以上です。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

これ、今回10年に1回の定期点検というふうに聞いたんですけれども、その10年に1回というの何か根拠があるんですか。

○高田委員長

藤木課長。

○藤木まち創造部地域整備課長

道路法におきまして、橋梁とかの大型の道路施設、道路照明なんかは5年に1回というふうに決められておるんですが、こういう小型の道路附属物に関しましては10年に1度という規定がございます。

以上です。

○高田委員長

いいですか。

ほかに。

浅岡委員。

○浅岡委員

92ページの真ん中辺りのコミュニティー助成補助金、今回は旧の白木小学校区ということですが、何地区、250万円の何地区ありますか。

○高田委員長

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

9地区になります。

○浅岡委員

1地区幾らずつになりますか。

○高田委員長

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

それぞれでご希望を調査させていただいた上で、旧の白木校区の自治会の方に話しさせていただいています。単純に250万円を9で割りますと27万円とかその辺になりますけれども、実際のところはもうばらばらの金額になっています。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

均等に希望しはったとして27万何がしですよ。これが石川地区、大宝地区及び中村地区になったら、1地区どれぐらいの金額になりますか。

○高田委員長

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

石川でいいますと、4か5になりますので、単純計算いたしますと50万の割り算になってくるというふうに思います。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

簡単な計算で申し訳ないんですけども、私のおります旧の河内小学校区も今では10地区あるわけです。半分のところと、同じ250万円を4つで分けるところと10地区で分けるところと、これ出てきているわけですね。ずっと言うていますがけれども、改良点はございせんか。例えば33地区あるので11地区ずつ、3年に1回行き渡るようなやり方もあると思うんですけども、これを言うたら区長会で、ここにこの列のすみません、委員からは多分このご意見は出ないと思うんですけども、中川議長からは出てもおかしくないような意見やと思いますのでね。これ、過去にもずっと言われてきましたけれども、区長会で決まったことで、区長会議にかけていただかんとどないも返事でけへんというようなことやったんですけども、行政としてその辺の指導というんですかね、ご案内をしていただくことはできますか、できませんか。

○高田委員長

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

すみません、いろいろ人口であったり地区の数であったり、必ずしも見方によれば平等じゃないやんというような意見が出てくるのは、単純に見ても分かりますけれども、過去の答弁とそのまま同じかと思えますけれども、地区割りにつきましては、一応コミュニティー組織という単位で持ったときに、やはり旧の小学校区の5校区でもって区分けした上で、各年度で申請していこうかというようなことでお決めいただいたかと思えますので、今のところは、ひとまずこの形でとは思いますが。

ちょっと私どものほうからそういう投げかけをさせていただくのに、なかなか何といふかな、一番平等で、かつ、誰が見てもというところまでのなかなか案というのがぱっと思い浮かばんような状態でもありますし、その辺はまだ引き続きは検討させていただきますけれども、今のところ、先行して我々のほうからちょっと地区割りを変えてはどうかといったところまでの踏み込みはできないものだと思っております。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

新しく議員になられた議員方もおられますので、先ほどの簡単な単純な数字を聞いていただけただけでも結構です、ありがとうございました。

○高田委員長

ほかに。

廣谷委員。

○廣谷委員

まず、92ページのイベント委託料という、これは何のイベントの委託。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

イベント委託料ですけれども、町の魅力を広くPR情報発信していくのが、さっき町長の所信の中にもありましたけれども、地域の活性化、町の発展、いろんな意味で非常に重要なものとは考えております。町内だけで今までイベントがあればいろいろ参加、もちろんあったんですけれども、町内だけにとらわれず、町外においてもPRできる場所を求めて実施していきたいと考えています。

具体的なイベントで考えておりますのは、今年度新たなPRの場所として今思っておるのは8月の中旬、15日やったかと、今、ごめんなさい、日にちはまた確認いたします。8月中旬にはなりますけれども、吹田市のエキスポシティのほうで開催されます移住定住に関するイベントであったりとか、あと昨年度からも参加させていただいたりしておりますけれども、万博関連の行事ということで、咲洲庁舎のほうであったイベントであったりとか、吹田市のエキスポ公園の中であった万博イベント、様々なところで町の魅力を発信できるような、まずPRに努めていきたいというのを考えておるところです。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

それは結構なんですけれども、議員の皆さんに道の駅の駐車場、あそこをつくる時にえらいお金がかかるやないか言うて、何するんや言うたら、町のことをPRすると、あそこでイベントを開きたいと、そういうふうな答弁されているのに、それがほんならエキスポやら万博やら言うて、それも結構やけれども、その駐車場にするときの目的をみんなに大々的に発表しといて何も無いというのは、これ、どういうことですか。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

今、町外のほうをメインでちょっと話してしまいましたけれども、もちろん町内におきましても道の駅であったりとか、あと広く町在住の住民だけでなく、他市町村からの来場が見込めます近つ飛鳥博物館であったりとか、様々な場所におきましてもイベントのほうは今回このように考えていきたい、考えていく予定では進めていきたいと思っております。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

イベントをと言うてせっかく駐車場をつくって、やって、大々的にイベントをすると言うて発表して、あそこ、駐車場にやってんやからね、それを第一にやっぱり言うてくれやんな、このことに、今、道の駅のあそこきれいになって駐車場になって、奥のイチゴの人の駐車場専属になつとるし、ほんであの入り口は大型進入禁止や言うても、ずっと大型の重量物のトレーラーの待機場所になっていますわね。もちろんあの信号は大型車のダンプの専属のUターンの場所になつとるわね。だから、全然言うていることをやってないという、やっぱり議員皆さんに説明して、駐車場、道路を含めて、あれも受益者が少ない道路を拡張して、本当言うたら、受益者が多いところの町道を行き止まりでああいうお金の使い方するのはおかしい、もちろん。受益者が3人ほどのところをきれいに町道のお金を使う、それはおかしい話で、そういったことも踏まえて考えてやってください。早急に道の駅の駐車場をやって、約束どおりあそこでイベントも計画していただきたい。

次に、近鉄のいろいろやってもらった、近鉄も河南西部土地改良区のところでイチゴのハ

ウスをあそこで借りて、大々的にやっている。これは近鉄の職員を河南町に受け入れている調査してくれ言うて、河南町の集客が見込めるのは、たしかあ那时候、ワールド牧場だけやという答えもらったね。そんなん、誰が聞いても分かっている話やけれども。反対に、近鉄が大きな土地を借りていちごの生産をしていますわね。生産の農業に対して生産地になった場合、税収って上がるのかなと。あそこはあそこでイチゴをやって、詰めて、自分の本社である近鉄の百貨店で大々的に毎日出荷している。毎日15名ぐらいの人が来ている。おれが通る道にずっと車をとめて、一番迷惑しているのが地元の人で、駐車場借りない、何も借りない、あそこに道にとめて、毎日見てくれたらええけれども15台ぐらい。ナンバープレート見たら奈良県、市内、地元雇用につながっているのかと言うたら、あそこに募集も見たことなければ何も見たことない。そういった中で、税収ですね、農業の生産地と大きくなった場合の税収は入るのか、入らんのか、ちょっと教えていただきたい。

○高田委員長

森口課長。

○森口総合政策部秘書企画課長

今、河南西部土地改良区のところ、6千平方メートルの土地ですかね、あそこに大きなハウスができて、今イチゴ栽培が昨年からはスタートしているのはおっしゃるとおりです。その中で、税収というところでも、本社機能がこちらにまだ置いていない状況にはあるかと思っておりますので、法人税というところでは、まだ今のところ見込めてはないところではありますが、上屋のハウスというのは償却資産等になるかとは思いますが、ちょっと細かい税のどういう、増えたかどうかというのは、すみません、個人的ないろんなこともあると思うので、なかなかお答えしづらいところがありますが、そういったものは見込めるかとは思っています。

あと、雇用のほうにつきましても、来ている車が他府県ナンバーであったりとか、河南町であれば和泉ナンバーなんですけれども、和泉ナンバーが少なかったりとかというところがあります。先日ちょっと私のほうも雇用の状況とかもちろっと話をちょっと聞きに行かせていただきましたが、仰せのとおり募集のほうは、いろいろと今のはやりですのでインターネットとかいろんな記事で募集はされたとは聞いておるんですけれども、河南町の雇用というのは数名程度には収まっているとは聞いています。広くやはり地元雇用というところは今後も促していきたいとは思って、交渉はさせていただいておりますけれども、現状は数名程度であったというのは把握しております。今後も雇用にもつながることにはなろうかと思っておりますので、そういった企業等につきましても引き続きまたお願いといたしますか、交渉してい

きたいなと思っております。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

一般企業ですので、自分ところの利益優先ですからね。これ本当に農業の生産地になった場合は、税収が上がらんというのは、あそこに本社機能を置いても上屋機能を置いても何のためにもならん。固定資産か何か言うけれども、ビニールのトンネルの場合は税収にはならん、正直言うて。建て方によりますけれども、微々たるものでございましてね、これね。だから、結果、近鉄が来ても、自分ところの生産地を河南町に見つけて、ほんでもうそこからぼんぼん近鉄に送り出して、これ反対ですよ、よう考えたら。ウイン・ウインどころか、向こうがみんないいところを持っていっているというのは、見方としては、これは自分の目から見たらそうですわ。民間が雇ってもらいに来て、販路は確立する、いや販路を確立しても大分量が要りますわね、一気に。量が少ないところはどないしてもあかんようになる。大きな1町や2町のところで作物をつくって、本当に生産地としてどんどん出すようになったら、販路というのは確立できるけれども、だからそういうところでもうちょっと向こうの手法も、そういう手法をとってんやから、もっと考えてほしいというのは僕の見解やけれどもね。もっと見る視点を変えてほしい。これからよろしくお願いします。

次に、93ページ、重層的支援、新しくできて、これ重層的というから何かと何かを、2つを一遍にするという意味やけれども、今まで片方ずつやっていた支援を2つにまとめてやりますよという意味やけれども、今まで2つとも支援をしていたわけやけれども、その窓口が2つ一遍にするということになって、どうして忙しくなるのか。ほんでもた職員を雇う。おれ聞いたときにはアルバイトを雇うと言っていたよって、アルバイトを雇うんやったら、そんな重点的なことあったら正社員を雇ってくれと言っていたら、勉強会かどこかで、ほな、社会福祉協議会に正社員を雇って町はアルバイト雇うと、反対やそれ。これおかしな話で、それをシャッフルして、こっちで社会福祉協議会でしてくれと言うてんやけれども、それもやらんと、こういうことをやっていくというのは何か政策的におかしな話で、結果、重層的と、まず何と何がひっついたわけですか。

○高田委員長

和田課長。

○和田健康福祉部副理事兼高齢障がい福祉課長

重層的支援といいますのは、今まで別々であった何かと何かがかくっついてということでは、明確にそういうことではなくて、相談とか支援とか、課題の内容が結構やっぱり複数の要因が掛け合わさったりして複雑になったり複合化したりして、ちょっとやっぱり支援が難しくなっていています。そういったところをきっちりと支援できるようにというふうなところですね。ほんで、そこで相談から結局、相談を受けた後にどういう支援をしていけばいいかというふうなところで、具体的な支援案をつくらないといけないんですけども、ではその支援を継続的に行っていくような人員も要りますし、そのために場合によってはその方に通っていただくための、例えばひきこもりの方であればそこに通っていただくための場が要るとか、そういった参加のための資源的なところの、じゃ、どうしていくかというふうな検討とかも必要になってきますので、そういったことを相談から支援までの部分をきっちりと、より手厚くできるような体制をつくりましょうというのが重層的支援体制整備事業というふうなことでなっております。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

全く分からん。説明ゼロやで、今の。何と何をやってやるという、人が相談するときは全部重層的なことを言うねん。一つのことで相談しに行きはるお客さんなんかいてない。人と話したら全部重層的、多重的なことで、ずっと相談を受けて、その中で支援できるやつをこうですよ、こうですよ言うてこっちから言うのが窓口。だから、何と何をやって重層的かというのを、それすら答えられへんかったらもうおかしいやん。どうですか。おれの言うている質問すら聞いてない。

○高田委員長

田村部長。

○田村健康福祉部長兼総合保健福祉センター長

現行は様々な、今委員おっしゃったように、ご相談というのは人それぞれで、いろんな問題があるということなんですけれども、役場としましては、高齢の分野、また障がいの分野、また子供の分野、生活困窮ということで、それぞれの相談窓口で対応させていただいております。現状もそういう形なんですけれども、それを一体的に進めていく、包括的にやっていくというのが重層的支援ということで、相談窓口はそれぞれありますけれども、そういったところをつないでいくということをこれから組織として構築していくということでございます。

す。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

質問するほうが分かって質問しているんやから、もうちょっと分かりやすいように部長も研究したほうがいいよ、ほんまに。

以上。

○高田委員長

ほか、いいですか。

ちょっと時間が1時間過ぎましたので、14時20分まで休憩としたいと思います。

休 憩（午後2時08分）

~~~~~

再 開（午後2時20分）

○高田委員長

それでは、休憩前に引き続きまして委員会を再開したいと思います。

質問ありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

なければ、議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）の委員の質疑を最終したいと思います。

次に、議案第9号、令和6年度河南町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）の審査に入ります。

歳入歳出一括して説明をお願いします。

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

では、説明させていただきます。104ページの歳入でございます。

（款）国庫支出金、（項）国庫補助金、（目）総務費国庫補助金、（節）総務管理費補助金で1,025万4千円の追加となっております。令和6年12月2日以降、国民健康保険の被保険者証が廃止となることによるシステム改修費に係る補助金です。

（款）府支出金、（項）府補助金、（目）保険給付費等交付金、（節）特別交付金で19万

8千円の追加となっております。これは、各種補助金を申請する際に使用するシステムに、産前産後国保保険料の軽減に係る補助金を申請する機能を実装する改修費に係る補助金です。

次に、105ページの歳出でございます。

(款) 総務費、(項) 総務管理費、(目) 一般管理費、(節) 役務費、通信運搬費、郵便料で56万7千円の追加。これは、資格情報のお知らせを送付する郵送代であります。厚生労働省から全医療保険者に依頼があったもので、全ての方に安心してマイナンバーカードを保険証として利用していただけるように、現時点で加入されている医療保険者とマイナンバーの下4桁をお知らせするものです。

(節) 委託料 国保システム改修委託料で988万5千円の追加。こちらは、令和6年12月2日以降、従来の被保険者証が廃止となり、原則マイナ保険証に移行します。しかし、マイナンバーカードを所持していない方や、マイナンバーカードと保険証をリンクしていない方などのために、被保険者証の代わりとなる資格確認書等を発行することになりますので、そのためのシステム改修費となっております。

以上、簡単ではございますが、説明とさせていただきます。よろしくご審議の上、ご可決賜りたくお願いいたします。

○高田委員長

説明は終わりました。

委員の質疑を行います。——佐々木委員。

○佐々木委員

マイナ保険証を持たない人向けに988万円ということなんですけれども、これ何人ぐらい想定されていますか。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

現時点で、マイナンバーカードで保険証をひもづけている方が60%、70%ほどいてはります。国保被保険者数3千人に対して、マイナ保険証の登録者が1,900人、2千人ほどいてはりますので、残りの1千人ほどが資格者証の対象者になるかと考えております。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

マイナンバーカードを交付していても保険証と連携するかしないかというのはまた別の話なんですよね。それをしているのがもう既に7割いてるということなんですよね。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

そういうことでございます。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

分かりました。

○高田委員長

いいですか。

ほかに。

力武委員。

○力武委員

現行の紙の保険証の有効ですけれども、それは12月にマイナンバーカードとひもづけをして、12月にびたっと資格は止まるの。もう少し余裕はあるのかな、そのあたりはどうなのか。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

現状の被保険者証の有効期限は令和6年10月31日で、次に発行の被保険者証の有効期限も1年間ということになりますので、令和6年11月1日から令和7年10月31日まで従前の被保険者証が有効となっております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

そうならば問題は、この移行期間において今、約千人ほどのひもづきされていない人たちの分で、紙の現行の保険証を1年間使って、その間の融通というか、随時移行を促すというやり方にするのか、期間を縮めてやるのか、そのあたりはどういうふうに、実務的にはしはるの。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

実務的に申しますと、次の被保険者証の有効期限が令和7年10月31日までとなっていますので、それはご使用になられて構わないんですけども、次に出る保険証は、もう資格確認書かマイナンバー保険証になりますので、こういうふうになりますという制度周知はさせていただきますけれども、令和7年10月31日の保険証が切れた時点で、完全に移行するという形になります。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

この間、ちょっと保険年金課にはお世話になったんですけども、短期証の発行、これの取扱いはどうしはるのかな。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

被保険者証が廃止ということになりますと、それに伴って短期証と、ちょっと期間の短い保険証も廃止となります。その代わりに、特別療養費の支給という支払い方法に変更になります。こちらは、病院で10割払っていただいた後、役場に来ていただいて7割返還を申請するというようなサービスというか、そういう支払い方法に変更となります。

そうならないために、特別療養費の支給に変更する旨の事前通知を行って、注意喚起をして、役場に来て、例えば未納であった納付書の話をするとか、そういうふうに促すような方法で、そういう流れとなっております。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

非常に問題やと思うんですね。10割を負担できない人、あるいは3割負担、1割負担の人でも今でも難儀してはる人はたくさんいてはる。そういう中で10割負担なんてとんでもない話ですよ。大体償還払って1か月か2か月かかりますやんか。レセプトチェックしてその期間の間に。その期間の病院のこの人たちに対する、病院に行かない無診療状態が、僕は発

生するんじゃないかなと思うんですよ。そういうのを急激に、国の制度とはいえ、それにシステム化していこうということは、ちょっと問題やなと僕は意見だけ言っときますわ。

それともう一つは、資格確認書の有効期限が5年と今、国、言うてはりますやんか。今の紙の保険証は1年ごとの更新になっていますやん。これを少なくとも3年ぐらいにできないかと言うて、僕、ずっと一般質問もさせてもらったけれども、それはできへん、できへんと突っぱねてはったんやけれども、何で簡単に5年と言われるのかなと。これ、課長に言うたかってしょうがないことなんやけれども、物すごく矛盾を感じるんよ。今までできへん、できへん、1年で精いっぱいですわと言うていたのに、突然5年まで、5倍ですよ、長くなるって、こんなの非常に矛盾している話なんやけれども、どうなんですか。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

5年といたしますのは、5年を限度に各都道府県で決めてくださいというのが国の方針になっています。大阪府は令和6年度から統一になりましたので、大阪府は有効期限1年ということで、もう決定しております。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

もう一つは、実際診療、総合病院なんかはそういう状況というのは受けたりできるが、国保連合会なんかに入っている個人病院なんかは、本当にこのシステム変更に対して、今、紙媒体か、マイナンバーカードのひもづきの保険証というのは実際、6%ぐらいの利用率ですよんか。それがいろんな形でキャンペーン張って3割、6割にしようとしていますけれども、実際、町の病院、診療所、クリニック等は大変やと思うんですよね。そのあたりのフォローはどないなるの。これ、課長に言うたってしょうがないことやけれども。やっぱり大変やと思うんですよ。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

実際病院さんでマイナンバーカードを見せても、リンクできていないとかで、河南町と病

院の事務局とのやり取りで、この人、資格、国保じゃないのかというようなやり取りが今後発生するというのは、想定はできます。ですので、その辺、なるべくそういったことがないようには努めさせていただきます。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

もう一つはマイナンバーとこの保険証をひもづきにして、システムエラーとかイレギュラーが発生するという確率はかなり出てくるんじゃないかなという思いがするんですけども、そのためのフォロー体制、バックアップ体制というのは、何か聞いていますか、情報として。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

バックアップ体制と聞いていますか、マイナ保険証を持っているけれども、読み取りができなかったという方に関したりとか、マイナンバーそのものをなくしてしまったとかという方に関しては、申請に基づいて資格確認書、そちらのほうを発行するというので、病院に行けない、受け入れないという事態は避けられるようには考えております。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

確認書を発行するに至る流れというか、こちらから申請しないといけないのか、マイナンバーカードとひもづけていない人を抽出して勝手に送りつけてくるのか、幾らかかるのかとか、そのあたり教えてください。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

マイナンバーカードとひもづけていない人に対して資格確認書を送付させていただきますので、その辺の情報については国保中央会のほうから出てきますので、それを基に抽出して、当面の間は職権で送るという形になります。

費用につきましては、資格確認費用に関しては郵便で特別郵便というのがありますので、それと人数を掛け合わせた金額になるかと思うんですが、ちょっと具体的な数字を持ってい

ない、申し訳ないです。

以上です。

○高田委員長

いいですか。

ほかに。

河合委員。

○河合委員

さっき、力武委員と課長のやり取りの中で、病院から今後この人国保なんかどうかの確認の作業が増えるんじゃないかみたいな話があったんですけども、そういうのって、言ったら病院も一企業じゃないですか、そういう企業の方が役場にこの人の保険証国保なんかどうかと言ったら答えてもらえるものなんですか。

○高田委員長

桶本課長。

○桶本住民部保険年金課長

個人情報という形になりますので、その辺はどういった対処をしていったらいいのかというのは、やっぱり大阪府とかでのワーキングを通して、大阪府全体に統一した運用となるように、今後検討という形になるかと思えます。

以上です。

○高田委員長

河合委員。

○河合委員

そうだろうなと思ったので、聞きました。

○高田委員長

いいですか。

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

なければ、ここで「議案第9号 令和6年度河南町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）」の委員の質疑を終結したいと思います。

~~~~~

○高田委員長

次に、議案第10号 令和6年度河南町下水道事業会計補正予算（第1号）の審査に入ります。

歳入歳出一括して説明をお願いします。

池添課長。

○池添まち創造部副理事兼都市環境課長

それでは、令和6年度河南町下水道事業会計補正予算（第1号）について説明をさせていただきます。111ページのほうをお開きいただきますようお願いいたします。

令和6年度河南町下水道事業会計予算説明書により説明をさせていただきます。

今回の補正は、当初予算は骨格予算でありましたので、委託や工事などの事業実施に係ります予算の増額でございます。

まず、下段の収益的支出から説明をさせていただきます。

（款）下水道事業費用、（項）営業費用、（目）管渠費で、（節）委託料が1,140万円の増でございます。

これは、令和3年度に水防法が改正され、想定最大規模降雨に対する雨水出水浸水想定区域の指定などが必要となったことによるもので、区域の指定などは令和8年度以降の社会資本整備総合交付金の交付要件になっております。

次に、（目）総係費で、（節）委託料が690万円の増でございます。

これは、下水道法第4条に基づく河南町流域関連公共下水道法事業計画、また、都市計画法第59条に基づく都市計画法事業認可が令和7年3月までの事業期間となっておりますので、計画の見直しを図るものでございます。

続きまして、上段側、収益的収入でございます。

（款）下水道事業収入、（項）営業外収入、（目）他会計補助金で、1,260万円の増でございます。一般会計からの補助でございます。

次に、（目）補助金で570万円の増でございます。

先ほど支出で説明いたしました雨水出水浸水想定区域の指定などに係る事業費の2分の1につきまして、社会資本整備総合交付金の交付を受けるものでございます。

スワイプしていただきまして、次の112ページをお開きいただきますようお願いいたします。

下段の資本的支出から説明をさせていただきます。

(款) 資本的支出、(項) 建設改良費、(目) 公共下水道整備事業費で(節) 工事請負費が903万円の増でございます。

これは、公共下水道整備事業といたしまして、個別ポンプを1か所、公共ますの設置を1か所行うものでございます。

次に、上段資本的収入でございます。

(款) 資本的収入、(項) 企業債、(目) 建設企業債で、900万円の増となっております。

次に、(項) 他会計出資金、(目) 他会計出資金で3万円の増となっております。

以上、簡単ではございますが、補正予算の説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○高田委員長

説明が終わりました。

質疑をお受けします。——廣谷委員。

○廣谷委員

別にこれは言いたくないんやけれども、ずっと下水道会計は赤字が続いていますわね。一体この赤字、ずっと続いているのを、料金を値上げするんか、これ言うたらそういうふうになってもたらあかんから言わへんかってんけれども、ずっと赤字続いていますけれども、これはこれでライフラインやから、これは自治体のあれやから、一般会計からずっと入れると。こういう手法はいつまで続けられるのか。続けてほしいんやけれども、ある日突然続けられないというようなことはないんかな、どうですか。

○高田委員長

池添課長。

○池添まち創造部副理事兼都市環境課長

委員おっしゃるとおり、下水道の事業につきましては、実質収支のところでは60%程度というのが実質収支で4割程度というのが一般会計から出資をしていただいて、それで賄っているというのが現状でございます。ですので、実際、下水道につきましては応分の負担、使われた使用料に応じて、本来は収入をいただいて、その収入をもって事業を行っていくというのが法的な趣旨ではございますが、今現状では、制度発足以来、値上げをせずに今のところ一般会計からの出資をもって事業を行っているのが現状でございます。

ですので、先ほど申しましたとおり、実質収支的には6割程度というのが現実なところで、値上げのほうはしたいというところで、コロナ禍もあってずっと抑えて、今のところ

ろやっていないというのが現状でしたけれども、その辺はもう皆様に、今のつらい現状とかをうちの担当としましても周知をしていきつつ、値上げという方向も一つの選択肢として、やはり、必要なことではないかというふうには考えております。

以上でございます。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

これ、割と、この下水道の水道使った分で下水道の計算出るから、なかなか抑えるとかいうのは難しいからね。こういう状態でずっと進めていってくれたらいいなというのは思うんやけれども、赤字は赤字であるというのは周知しとかなないと、こういうずっとこれが赤字やいうのをもう忘れ去られているからね。その辺はちゃんとしてくれやんな、これももしか年数がたって管更生とかいうのが出てきた場合、もっとこれは跳ね上がっていくよと、びっくりするぐらい、だからその点、ふだんからそういうふうな周知をしながら、やっていただきたいというのはあれです、よろしく。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

111ページのハザードマップ作成業務が1,140万円計上されていますけれども、これ、説明では市街化区域のみということなんやけれども、河南町全体で言うたら市街化区域よりも市街化調整区域のほうが広いと思うんよね。まず市街化区域のエリアというのは何%ぐらい占めているの。

○高田委員長

池添課長。

○池添まち創造部副理事兼都市環境課長

大体1割ぐらい程度が市街化区域になっているかと思います。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

このハザードマップを作成するというのは、いろんな豪雨災害とか突発的なゲリラ豪雨の対応等々の関係で作成しようとしているわけでしょう。1割ぐらい、僅か面積で言うたら、

1割程度のハザードマップでいけるんかと。何で広域的な取組にしないのかと、そのあたりはどうなんですか。

○高田委員長

池添課長。

○池添まち創造部副理事兼都市環境課長

まず一番広域的な考え方でいくと、一級河川とか二級河川とか大規模河川があるかと思うんですけども、そちらのほうにつきましては都道府県でハザードマップをおつくりになられて、今年度か来年度にたしか大阪府がおつくりになられるというのは聞いております。あとは空白地がないようにできるだけやっつけようという中で、下水道の事業管理者に対して言われているのが下水道の事業区域内の部分もつくりなさいよというのが今回出ている、国からの指導なのでさせていただいて、それとは別に、河川洪水のほうの水害リスクの情報整備事業というのもありまして、そちらのほうは、全ての一級河川、二級河川のうち、防災安全交付金というのが出て、事業を進めていくというのは別事業でちょっとあります。そちらのほうは都道府県のほうで進められるというのは聞いております。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

そういったハザードマップを作成して、次のステップはどういうふうに、マップつくるだけなの、その対応、つくってからの対応は、危険箇所やなど、耐用年数も過ぎているなどというような維持管理という意味も含めて、つくるだけなの。次のステップはどのように考えてあるの。

○高田委員長

池添課長。

○池添まち創造部副理事兼都市環境課長

まずこちらのほうの今回つくらせていただきますハザードマップというのと浸水想定区域図というふうになるんですけども、平たく言えば、水が呑みこめないで浸かっちゃう区域と、こういうイメージになるんですけども、そういうのを明示するとこういう形になります。こちらのほうで、今後としてその区域の指定をした上で、ハザードマップというものをつくりまして、そちらのほうは住民の方々に当然ご周知をさせていただくような形にはな

るんですけれども、下水道担当としてはそれをもって、当然水が浸からない事業というのを
していかないかんで、雨水対策事業というのが、暗渠管であったりとか、側溝であったり、
いろいろやっていくんですけれども、それをするための条件として令和8年度からこれがな
いとできない、補助金やらないよと国のほうがおっしゃっているんで、そういうのもあって
これをつくるという側面もございますので、そこはご理解いただけたらと思います。

以上です。

○高田委員長

力武委員。

○力武委員

浸水対策の初期の計画をつくるということで位置づけしとったらいということですね。
理解しました。

○高田委員長

いいですか。

○力武委員

いいです。

○高田委員長

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

ないようでしたら、これをもちまして、議案第10号 令和6年度河南町下水道事業補正予
算（第1号）の委員の質疑を終結したいと思います。

~~~~~

○高田委員長

以上をもちまして、本常任委員会に付託されました議案3件について質疑を終結したいと
いうふうに思います。

これより、委員会として討論、採決を行います。

討論、採決は1件ずつ行います。

それでは、議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）の討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

なければ、討論を終結します。

次に、採決を行います。

議案第8号、令和6年度河南町一般会計補正予算（第1号）を原案どおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○高田委員長

挙手全員と認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第9号、令和6年度河南町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）の討論を行います。——力武委員。

○力武委員

質疑であったように、国策とはいえ、あまりにも横暴勝手なやり方じゃないかなというふうに思っています。現況の患者のことを考えてみたら、あまりにもむちゃぶりが多過ぎる。開業医の皆さんの事務関係の負担も大きいというようなことで、僕はもっと先送りしてもいいんじゃないかなという立場で反対をいたします。

○高田委員長

賛成討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

なければ、これで討論を終結します。

次に、採決を行います。

議案第9号、令和6年度河南町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を原案どおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○高田委員長

挙手多数と認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第10号、令和6年度河南町下水道事業会計補正予算（第1号）の討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高田委員長

なければ、討論を終結します。

次に、採決を行います。

議案第10号、令和6年度河南町下水道事業会計補正予算（第1号）を原案どおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○高田委員長

挙手全員と認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決しました。

~~~~~

○高田委員長

以上をもちまして、予算・決算常任委員会に付託を受けました議案3件の審査は終了いたしました。

来る最終日の本会議場におきまして、本日決しましたとおり、ご報告を申し上げます。

本委員会中に字句等の修正がありましたら委員長のほうで修正をさせていただきたいと思っておりますのでご了承ください。

なお、議長を除く全議員が委員となっておりますので、委員長報告としましては、簡潔に行いたいと思っております。各委員におかれましてはご了承のほどよろしくお願いたします。

最後でありますけれども、議長、何かございますか。

○中川議長

今日はどうもご苦労さまでございました。

補正予算、全て審議も出させていただきまして、拝見させていただいたんですけれども、細かいところまでいろいろ質疑を行っていただいたということで感謝しております。

あと、今回の補正予算は肉づけ予算ということで、実際の河南町のそういう方向性が示されたということです。また、町長の所信表明の中でも子育て、教育は河南町という合い言葉で進んでいくという中で、国におきましても少子化対策法が成立するというので、その中で児童手当の拡充とか高校生までの拡充、また、加速化プランによる子供1人当たり給付拡充額が平均約145万円増加するというような、そういう子育て加速化プランが進んでおります。

その中で今回の補正の中では、若干そこが河南町としての独自性というのは、何かあまり見えなかったというのがちょっと今後の課題だと思います。今回の国におきましても私、驚いたんですけれども、この146万円の拡充によりまして、OECDのトップのスウェーデンを上回るぐらいの水準になるというようなことを伺っております。

そういう中で、国のほうでこのような加速化プランと、そして河南町のほうでまた子育て、教育は河南町というところがタイアップしていただいて、より加速化していただいたらいいんじゃないかと思imasuので、今後また期待しておりますのでよろしくお願ひします。

以上でございます。

○高田委員長

ありがとうございます。

それでは、これをもちまして、予算・決算常任委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

午後2時52分閉会

~~~~~

委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

予算・決算常任委員会委員長